

# 教育は いま

第10号

- ◆ これからの評価に即した「通信簿」改善・充実に関する研究
- ◆ 仙台市小・中学校10年経過教員への意識調査

仙台市教育センター

## はじめに

平成5年度に教育センターが開所して以来、今年度で10年目を迎えることになりました。この間、当センター三大事業の一角を占める調査研究事業につきましては、一貫して仙台市教育委員会の基本方針・重点施策に基づき、主として今日的教育課題にかかわるテーマを選び、仙台市立学校を視野においた教育活動の改善に具体的に役立つような研究を目指してまいりました。

今年度は3分野の調査研究委員会を設置し、取組を進めてまいりましたが、ここに教育研究紀要Ⅰ『教育はいま』第10号として発刊の運びとなりました。いずれの研究も、教育現場において役立てていただくとともに、教育行政立案の資料にもなることを目指して推進してきたものです。

一つ目は、「これからの評価に即した『通信簿』改善・充実に関する研究」です。本市小・中学校の通信簿に対する児童生徒や保護者の要望、教員が抱える課題を踏まえ、本市小・中学校の通信簿の改善と充実に資する方策を探ったものです。

二つ目は、「仙台市小・中学校10年経過教員への意識調査」です。本市小・中学校10年経過教員の置かれている立場、保護者からの期待や要望など、本市の教育改革の指針となる生きた資料を得ることを目的とし、課題の要因を探り、改善策を教育現場への提言としてまとめたものです。

三つ目は、「メディアリテラシーの育成を図る情報教育の推進」です。メディアリテラシー育成のための授業構成や評価活動について探ったものです。教育研究紀要Ⅱ『確かな学力と豊かな心をはぐくむ情報教育』（別冊）として発刊いたしますので、『教育はいま』と併せてご活用ください。

研究の成果を広く活用していただき、教育研究・実践にお役立てくだされば幸いです。

また、今年度も、調査研究の発表を当センターから全国の都道府県及び政令指定都市の教育研究所等に、衛星通信（エルネット）により配信し、広くご指導を賜る機会をもつことができました。これを励みに、研究の更なる充実を図ってまいりたいと考えております。

最後に今年度の調査研究事業にご協力をいただきました委嘱研究員の方々、そして本事業にご支援くださった多くの方々に、心より感謝申し上げます。

平成15年3月

仙台市教育センター  
所長 目黒 保伯

# 総目次

■これからの評価に即した「通信簿」改善・充実に関する研究・・・7  
—自己改革を目指す仙台市の教師サポートプロジェクトⅡ—

■仙台市小・中学校10年経過教員への意識調査・・・・・・・・・・・・53

# これからの評価に即した「通信簿」改善・充実に関する研究

—自己改革を目指す仙台市の教師サポートプロジェクトⅡ—

## ■要 約

本研究は、本市小・中学校の通信簿に対する児童生徒や保護者の要望、教員が抱える課題を踏まえ、本市小・中学校の通信簿の改善・充実に資する方策を探るものである。本市小・中学校の通信簿に対する児童生徒や保護者の要望、教員が抱える課題を把握するために質問紙調査を実施した。調査により把握した通信簿に対する児童生徒や保護者の要望と教員が抱える課題を踏まえ、通信簿と保護者に対する説明文についてそれぞれ4例を提案することができた。

## ■キーワード

- |                               |                                   |                                 |
|-------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 教育経営 | <input type="checkbox"/> 小学校通信簿   | <input type="checkbox"/> 中学校通信簿 |
| <input type="checkbox"/> 二学期制 | <input type="checkbox"/> 通信簿改善・充実 | <input type="checkbox"/> 通信簿説明文 |

## 目 次

I	主題設定の理由	7
II	研究の基本的な考え方	7
III	研究の目的	8
IV	調査の概要	
1	調査の目的	8
2	調査内容	8
3	調査対象	8
4	調査数	9
5	調査実施期間	9
6	調査方法	9
7	調査の結果	9
V	児童生徒・保護者、教員の声を生かした通信簿改善・充実の五つのポイント	24
VI	おわりに	25
◆	通信簿例と保護者に対する説明文例	
1	単元ごとに観点別評価を取り入れた通信簿例 【小学校2年】	27
	※ 保護者に対する説明文例	
2	学習のめあてを分かり易く表現した通信簿例 【小学校3年】	33
	※ 保護者に対する説明文例	
3	学習状況のコメントを充実させた通信簿例 【小学校5年】	37
	※ 保護者に対する説明文例	
4	教科連絡票を活用した通信簿例 【 中学校 】	43
	※ 保護者に対する説明文例	

## I 主題設定の理由

### ■1 信頼される学校

教育改革が進む中、学校が保護者や地域住民から「信頼される学校」となるために、今、説明責任や結果責任を果たすことが強く求められている。

学校は、保護者に対し、保護者の要望も把握しつつ、児童生徒の様子や教育成果等について十分に説明することが必要である。信頼される学校づくりのためには、保護者との双方向のコミュニケーションを拡充することなど、共通理解を図るための不断の努力と主体的な取組が不可欠であると考える。

### ■2 これからの評価

これからの評価においては、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る絶対評価を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、児童生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要である。また、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価するため、個人内評価を工夫することも大切である。

### ■3 通信簿の役割

通信簿は、学校が保護者に児童生徒の学習状況や生活の状況などを伝え、児童生徒についての情報を共有化し、連携して教育を行うために作成するものである。

通信簿は、学校と保護者との双方向のコミュニケーションを図るための大切な材料であると言える。保護者に児童生徒についての情報をよりの確に伝えることができるように、学校には通信簿の内容や様式などを工夫することが期待される。

### ■4 学習の改善を支援

評価が児童生徒の学習の改善に生かされるようにするためには、児童生徒や保護者に、学習の評

価について日ごろから十分説明していくことが大切である。

通信簿についても、児童生徒の学習の改善を支援することに有効に役立てられるものとなるよう、内容や様式が各学校の判断で改善と充実が図られることが期待される。

### ■5 評価を開く

学習の結果としての評価とともに、どのような観点や規準で評価を行うのか、どのような方法で評価を行うのかなど、学校としての評価の考え方や方針を児童生徒や保護者にあらかじめ説明すること、すなわち「評価を開く」ことで、学校に対する児童生徒や保護者からの信頼を高められると考える。

以上のことを踏まえ、本市小・中学校の通信簿に対する児童生徒・保護者、教員の意識調査を通じて、本市小・中学校の通信簿の改善・充実に資する方策を探りたいと考え、本主題を設定した。

## II 調査研究の基本的な考え方

### ■1 通信簿改善・充実のための視点

- (1) 評価方法に関する説明の充実を図る
  - ① 評価に用いる資料について
  - ② 判断基準について
- (2) 評価結果に関する説明の充実を図る
  - ① 評価結果の提示内容について
  - ② 評価結果の提示方法について
- (3) 評価に関する説明の機会の充実を図る
  - ① 説明内容について
  - ② 説明方法について

### ■2 研究の進め方

本研究においては、本市小・中学校の通信簿の改善・充実に資する方策を探るため、以下のように

研究を進める。

(1) 小・中学校の通信簿改善・充実のための視点を踏まえ、児童生徒・保護者、教員を対象にした質問紙調査を実施する。

- ①児童生徒の要望を探る。
- ②保護者の要望を探る。
- ③教員が抱える課題を探る。

(2) 児童生徒や保護者の要望、教員の課題を踏まえた通信簿の例を提案する。

#### ① 小学校

##### ア 作成のねらい

児童や保護者のどんな要望にこたえ、教員のどんな課題を解消しようとしたかを示す。

##### イ 工夫した点

児童や保護者の要望にこたえ、教員の課題を解消するための工夫点を示す。また、二学期制との関連から配慮すべき点を示す。

##### ウ 通信簿の例

##### エ 保護者への説明文例

#### ② 中学校

##### ア 作成のねらい

生徒や保護者のどんな要望にこたえ、教員のどんな課題を解消しようとしたかを示す。

##### イ 工夫した点

生徒や保護者の要望にこたえ、教員の課題を解消するための工夫点を示す。また、二学期制との関連から配慮すべき点を示す。

##### ウ 学期末の通信簿の例

##### エ 教科連絡票の例

##### オ 保護者への説明文例

### III 研究の目的

通信簿に対する児童生徒や保護者の要望、教員の課題を踏まえ、本市小・中学校の通信簿の改善・充実に資する方策を探る。

### IV 調査の概要

#### ■ 1 調査の目的

本市小・中学校の通信簿の改善・充実を図るために、通信簿に対する本市小・中学校の児童生徒や保護者、教員の意識を把握する。

#### ■ 2 調査内容

- (1) 通信簿に対する児童生徒の意識について
- (2) 通信簿や学校からの評価情報に対する保護者の意識について
- (3) 評価結果の提示に関する教員の意識について

#### ■ 3 調査対象

##### (1) 児童生徒・保護者

表1の各小学校5年生、中学校2年生のうち、それぞれ1学級の児童生徒と、その保護者を対象とした。

調査対象校の選定に当たっては「仙台都市総合研究機構 (SURF)」の助言を受け、地域特性を考慮し抽出した。

表1 調査対象校

分類1	旧市街地で都市化が進んでいる地区 (旧城下町の武家地・町屋)
	木町通小学校 東二番丁小学校 通町小学校
	-----
	第二中学校 上杉山中学校
分類2	旧市街地で都市化がそれほど進んでいない地区 (旧城下町の町屋)
	南小泉小学校 南材木町小学校 宮城野中学校 八軒中学校
分類3	比較的古い時期に造られた団地地区
	折立小学校 吉成小学校 八木山中学校 鶴谷中学校

分類4	最近造られた団地地区
	南吉成小学校 北中山小学校 将監中学校 松陵中学校
分類5	宅地化が進んだ農村地区
	中田小学校 実沢小学校 福岡小学校 袋原中学校 蒲町中学校

(2) 教員

① 小学校 (122校)

各校の低学年・中学年・高学年より学級担任を各1名抽出。

② 中学校 (63校)

各校の学級担任を兼ねる教科担任を抽出し、全体で各教科の抽出数を30名とする。

■ 4 調査数

表2 児童生徒の調査数及び抽出率

学年	調査数 (人)	仙台市の総数 (人)	抽出率 (%)
小学5年生	321	9,193	3.5
中学2年生	324	9,486	3.4
合計	645	18,679	

表3 保護者の調査数及び抽出率

学年	調査数 (人)	仙台市の総数 (人)	抽出率 (%)
小学5年生	327	9,193	3.6
中学2年生	325	9,486	3.4
合計	652	18,679	

②市総数のデータがないため、児童生徒数と同数とみなした。

表4 教員の調査数及び抽出率

校種	調査数 (人)	仙台市の総数 (人)	抽出率 (%)
小学校	294	2,751	10.7
中学校	263	1,724	15.3
合計	557	4,475	

■ 5 調査実施期間

(1) 児童生徒・保護者

平成14年10月11日～28日

(2) 教員

平成14年7月11日～17日

■ 6 調査方法 質問紙法

■ 7 調査の結果

(1) 通信簿に対する児童生徒の意識について

① 通信簿の記載内容のうち児童生徒の関心の高い事項

(多肢選択回答～1位に選択した事項)

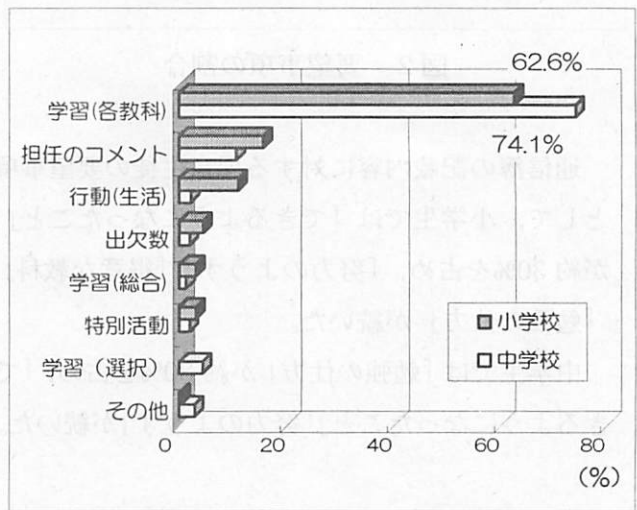


図1 通信簿の記載内容のうち児童生徒の関心の高い事項の割合

通信簿の記載内容のうち関心の高い事項として、小学生では「各教科の評価結果」が約60%を占め、次いで「担任からのコメント」「行動(生活)」が続いた。中学生では「各教科の評価結果」が約70%を占め、次いで「担任からのコメント」「行動(生活)」が続いた。

また、その他の回答内容は、小学校では「よくできた」の数や表紙、中学校では部活動や受賞の記録であった。



② 通信簿の記載内容に対する児童生徒の要望事項

(多肢選択回答～1位に選択した事項)

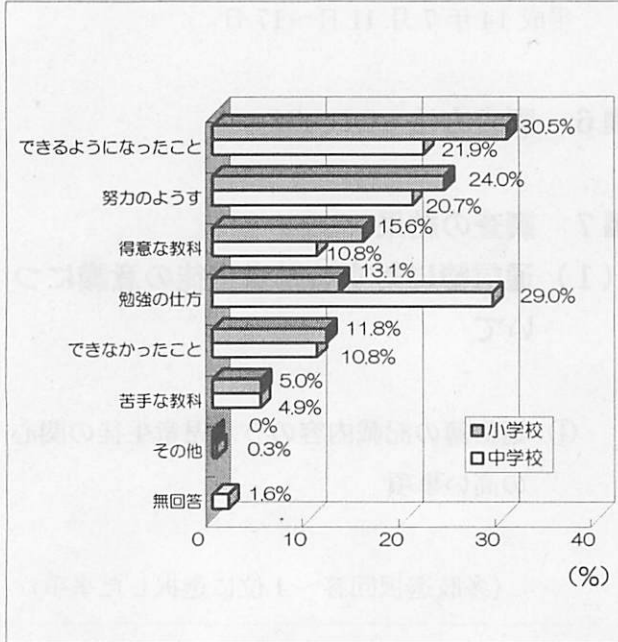


図2 要望事項の割合

通信簿の記載内容に対する児童生徒の要望事項として、小学生では「できるようになったこと」が約30%を占め、「努力のようす」「得意な教科」「勉強の仕方」が続いた。

中学生では「勉強の仕方」が約30%を占め、「できるようになったこと」「努力のようす」が続いた。

(2) 通信簿や学校からの評価情報に対する保護者の意識について

① 保護者は児童生徒の学習状況をどのような方法で把握しているか

小学生保護者では児童の学習状況を把握する方法として「テストの結果」が約35%を占め、「通信簿の記載内容」「面談での担任の話」が続いた。

中学生保護者では生徒の学習状況を把握する方法として「テストの結果」が約30%を占め、「成績通知票」「通信簿の記載内容」「面談での担任の

話」が続いた。

その他として、小学生保護者では子どもからの話や学級便り・学年便り、中学生保護者では学級通信といった回答があった。

(多肢選択回答～1位に選択した方法)

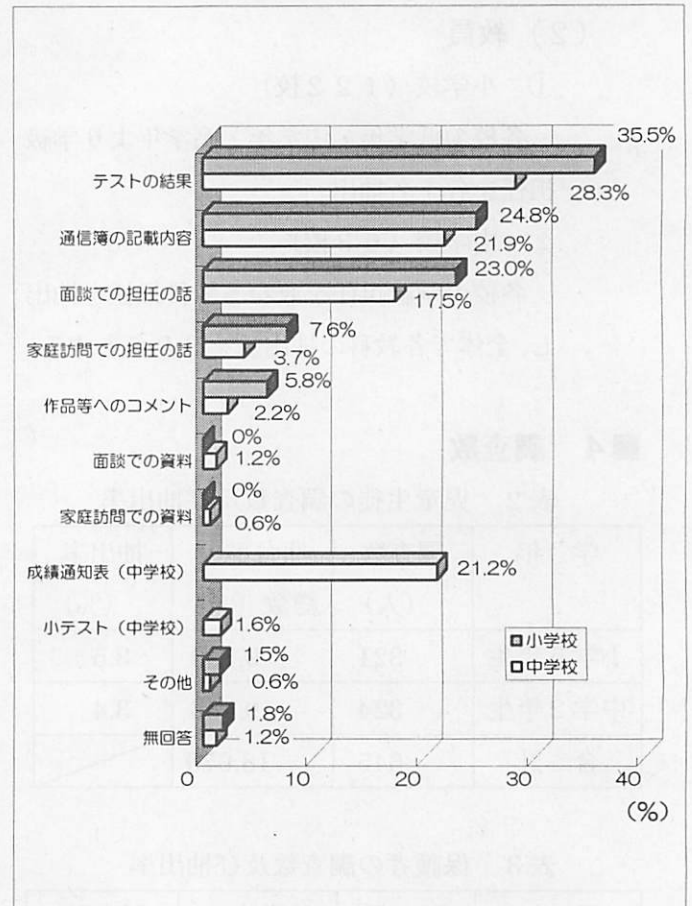


図3 把握方法の割合

② 通信簿の記載内容のうち保護者の関心の高い事項

小学生保護者では通信簿の記載内容のうち関心の高い事項として「学習 (各教科の評価結果)」が約50%を占め、「担任のコメント」「行動のようす (生活)」が続いた。

中学生保護者では通信簿記載内容のうち関心の高い事項として「学習 (各教科の評価結果)」が約70%を占め、「担任のコメント」「行動のようす (生活)」が続いた。

(多肢選択回答～1位に選択した事項)

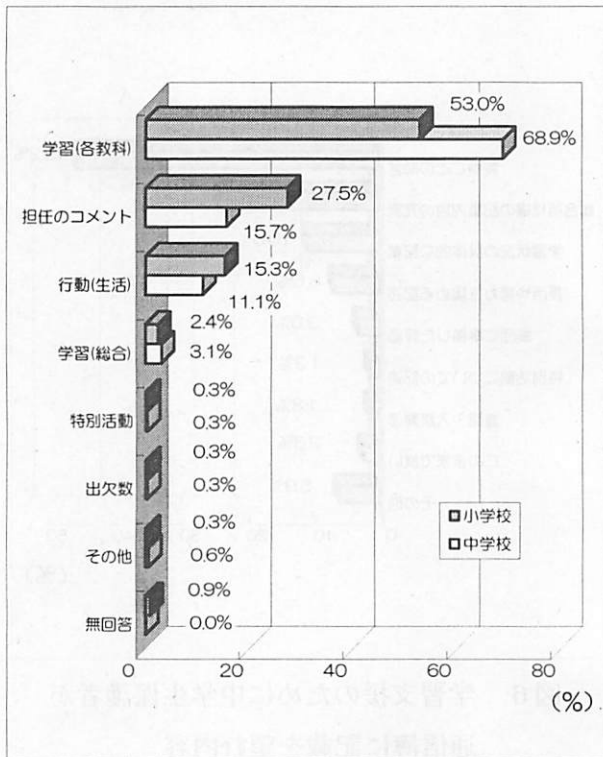


図4 関心の高い事項の割合

③ 学習支援のために保護者が通信簿に記載を望む内容

表5 記載を望む意見の件数

	回答者数	記入者数	件数
小学校	327人	212人 (64.8%)	253件
中学校	325人	198人 (60.9%)	303件

ア 小学生保護者 (自由記述回答を類型化)

(ア) 学習状況の具体的な記述を望む

「各教科ごとに具体的によく分かっていること、分からなかったことを書いてほしい。生活面や学習面で気を付けること、悪いところも書いてほしい。」など

(イ) 教科ごとの助言を望む

「達成状況で○がつかなかった点では、もう少しこういう点に注意・努力すれば、なおよいとのアドバイスがあれば分かり易く参考になります。」など

(ウ) 長所や努力を認める記述を望む

「担任の先生から見た児童の長所、頑張っていることが多く記載されているとよいです。」など

(エ) 集団に準拠した評価を望む

「全体の中で子どもがどの位置にいるものなのかも知りたいと思います。」など

(オ) 今のままでよい

「現在の記載で十分だと思います。」など

(カ) 交友関係

「友達関係を詳しく知りたい。」など

(キ) 生活の様子

「学校での生活状況を知りたい。」など

(ク) その他

「一つか二つ自分だけの目標を作り、それができるかどうかをみてくださる。」など

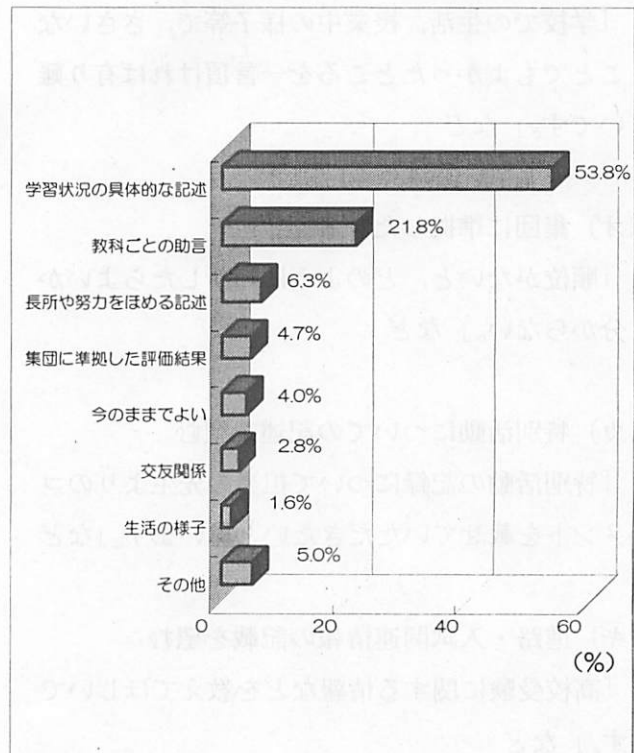


図5 学習支援のために小学生保護者が通信簿に記載を望む内容

小学生保護者が学習を支援する上で通信簿に記載を望む内容として「学習状況の具体的な記述」が約50%を占め、「教科ごとの助言」「長所や努力を認める記述」が続いた。

## イ 中学生保護者（自由記述回答を類型化）

## (ア) 教科ごとの助言を望む

「家庭でどんな内容の学習をすればよいのか。努力を要する項目を詳しく記載してほしい。教科担当の先生よりコメントを頂きたい。」など

## (イ) 総合所見欄の記載内容の充実を望む

「先生からのコメントがとても役立ち、読むのが楽しい。」など

## (ウ) 学習状況の具体的な記述を望む

「学習・行動の実現状況が細かくなり、より正確に子どもの様子を知ることができるようになりました。」など

## (エ) 長所や努力を認める記述を望む

「学校での生活、授業中の様子等で、ささいなことでもよかったところを一言頂ければ有り難いです。」など

## (オ) 集団に準拠した評価を望む

「順位がないと、どのように判断したらよいか分からない。」など

## (カ) 特別活動についての記述を望む

「特別活動の記録について担当の先生よりのコメントを載せていただきたいと思います。」など

## (キ) 進路・入試関連情報の記載を望む

「高校受験に関する情報などを教えてほしいです。」など

## (ク) その他

「通信票に記載されていることよりも、実際に話してもらう方がよい。」など

(自由記述回答を類型化)

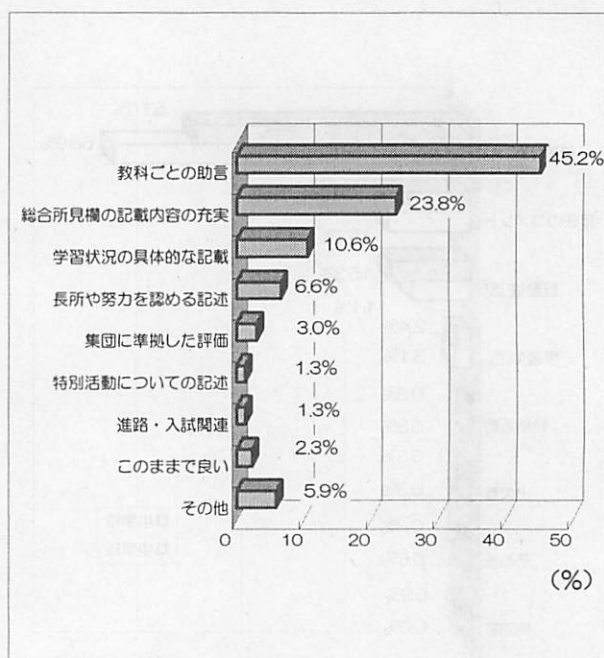


図6 学習支援のために中学生保護者が通信簿に記載を望む内容

中学生の保護者が学習を支援する上で通信簿に記載を望む内容として「教科ごとの助言」が45%を占め、「総合所見欄の記載内容の充実」「学習状況の具体的な記述」がそれに続いた。

## ④ 現在の通信簿のよい点

表6 よい点に関する意見の件数

	回答者数	記入者数	件数
小学校	327人	202人 (61.8%)	219件
中学校	325人	189人 (58.2%)	201件

## ア 小学生保護者（自由記述回答を類型化）

## (ア) 観点別評価

「各教科の学習のめあてが細かく分かれており、その一つ一つについて、よくできた・できた・がんばろうの評価がされていて、分かり易いし見易くなったと思う。」など

## (イ) 所見欄の記載内容

「担任のコメントはとても大切に感じます。一

番大切な箇所でもあるのですが、人格形成という大切なとき、家庭と違う姿を長所・短所を問わず発見していただけたときには、本当に有り難く思います。」など

(ウ) 目標に準拠した評価

「相対評価から絶対評価になり、その子なりの努力の結果が分かるようになったこと。」など

(エ) 3段階での評価

「5段階評価ではないところ。(3段階評価は)子どもはダメージが少なく、もっと頑張ろうという気持ちになる。」など

(オ) 行動の記録の記載内容

「生活の様子は詳しいので、子どもの日々の学校での活動状態が分かってよい。」など

(カ) 総合的な学習の時間の記載内容

「総合的な学習の時間の様子で、本人がどんなことに興味をもち、どんな活動を行ったかが分かるのでよかった。また、評価が特にないことで自由な発想のもとに本人が活動できるのでよかった。」など

(キ) 長所や努力を認める記載内容

「親は子どもの欠点だけ見がちだが、先生は第三者の視点から子どものよい点を見付けてくれる点で、子どもは自信と喜びを感じる。」など

(ク) 単元ごとの評価

「教科ごとに、単元の内容の説明があり、学期ごとに、どの教科でどんな内容を学習するのか、どこが得意で不得意なのかが分かり易くてよかった。」など

(ケ) その他

「今回の通信票の他に、自己評価表があったのですが、子どもの心の中が少し見えた気がして、とてもよかったです。」など

(自由記述回答を類型化)

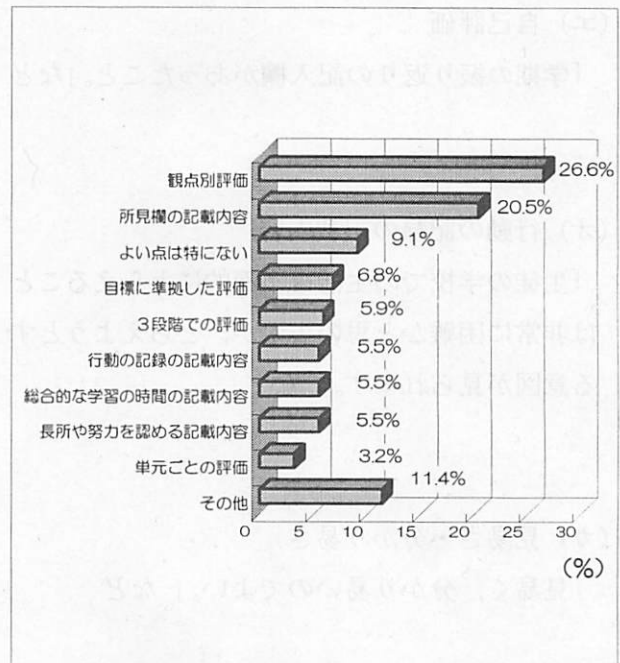


図7 現在の通信簿のよい点 (小学生保護者)

小学生の保護者から寄せられた現在の通信簿のよさのうち「観点別評価」が約27%、「所見欄の記載内容」が約20%を占め、「よい点は特にない」「目標に準拠した評価」が続いた。

イ 中学生保護者 (自由記述回答を類型化)

(ア) 観点別評価

「以前と比べ、観点別評価という項目により、子どもへのアドバイスをする上での目安として、とても活用できる。」など

(イ) 所見欄の記載内容

「担任の先生から、いろいろと分かり易く書かれていて読むのが楽しみです。」など

(ウ) 目標に準拠した評価

「今までだと、いくら頑張っても、学年で人数がある程度決められていたが、今度は、頑張った人がよい点をもらえるので、よい。」など

(エ) 自己評価

「学期の振り返りの記入欄があったこと。」など

(オ) 行動の記録の記載内容

「生徒の学校での生活を多面的にとらえることは非常に困難かと思いますが、とらえようとする意図が見られます。」など

(カ) 見易さ・分かり易さ

「見易く、分かり易いのでよい。」など

(キ) 多面的な評価

「点数だけでなく、本人の努力の様子などが書かれている点がよいと思う。」など

(ク) 総合的な学習の時間の記載内容

「総合的な学習の時間の記録のコメントがよかった。」など

(ケ) その他

「自己評価で自分の学習・生活を振り返り、今後の目標にするのは、今時の企業のようにびっくりした。ただ、子どもの書くことなので、あくまで参考程度にしてほしい。また、その目標が達成されたかどうかの指標を担任が的確に生徒個々に対応してほしい。」など

(自由記述回答を類型化)

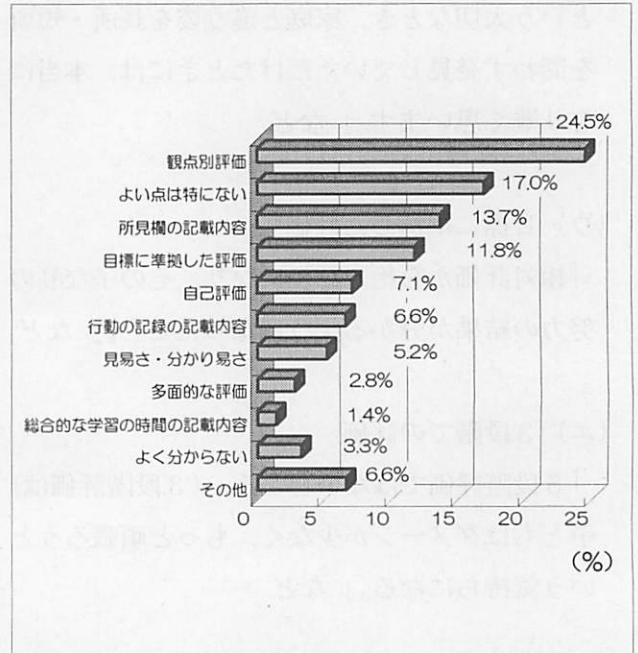


図8 現在の通信簿のよい点 (中学生保護者)

中学生の保護者から寄せられた現在の通信簿のよさのうち「観点別評価」が約25%、「よい点は特にならない」が約20%を占め、「所見欄の記載内容」「目標に準拠した評価」が続いた。

⑤ 現在の通信簿に対する要望

表7 現在の通信簿に関する要望の件数

	回答者数	記入者数	件数
小学校	327人	137人 (41.9%)	163件
中学校	325人	126人 (38.8%)	171件

ア 小学生保護者 (自由記述回答を類型化)

(ア) 評価の判断基準の提示を望む

「学習のめあてや生活の様子項目は、基準が明確に示されていないため、評定者の主観によりばらつきが生じると思われる。また、できた→よくできた、頑張ろう→できた に改善するためには何をサポートすればよいのかが通信票から見えないのは残念。」など

(イ) 評価の観点の具体的な記述を望む

「学習の様子で子どもも親も結果として、『できた』が何個、『よくできた』が何個というだけでなく、めあての項目をもっと分かり易く身近な言葉で書いてもらいたいです。」など

(ウ) 総合所見欄の記載内容の充実を望む

「学校からの連絡の欄には、力を入れた方がよい点、直してほしいと思われる点も書かれていると、自分の子どもの学校生活がより伝わると思います。」など

(エ) 集団に準拠した評価を望む

「クラスでどの位置に属しているか(成績の分布図)を大まかでいいから示してほしい。」など

(オ) 5段階での評価を望む

「5段階評価の方が、親として分かり易いような気がする。よくできた、がんばろうなどの境界が分かりにくい。」など

(カ) 教科ごとの総括的な評価を望む

「各教科において、いろいろな評価項目ごとの評価もうれしく思うが、項目別に加えて、やはり教科そのものの評価も見られるとよい。」など

(キ) 生活の様子の具体的な記述を望む

「生活の様子が12項目しかないのは少ないと思う。もっと子どもを多方面から見て知らせてほしい。」など

(ク) 行動等の所見欄の設定を望む

「小学生は特に生活の様子が気になります。もう少し前向きに考えられる評価を期待します。全体的なコメントがほしいです。」など

(ケ) 教科ごとに所見欄の設定を望む

「がんばろう、できた、よくできたの評価の他

に、コメントを入れていただければ、より分かり易いかと思う。」など

(コ) 現状でよい

「通信票に関しては、公立の教育機関においては学童自身も目にするものであるから、現在の方法でもよいかと思う。」など

(サ) その他

「二学期制ということで、通信票は年二回だけになってしまったのは、とても残念です。一学期末が夏休み以後では、子どもの状態が夏休み前とあとは著しく違うということで、それをまとめてというのは納得がいきません。夏休み前にもう少しかるいものでもよいので、通信票を出してほしい。」など

(自由記述回答を類型化)

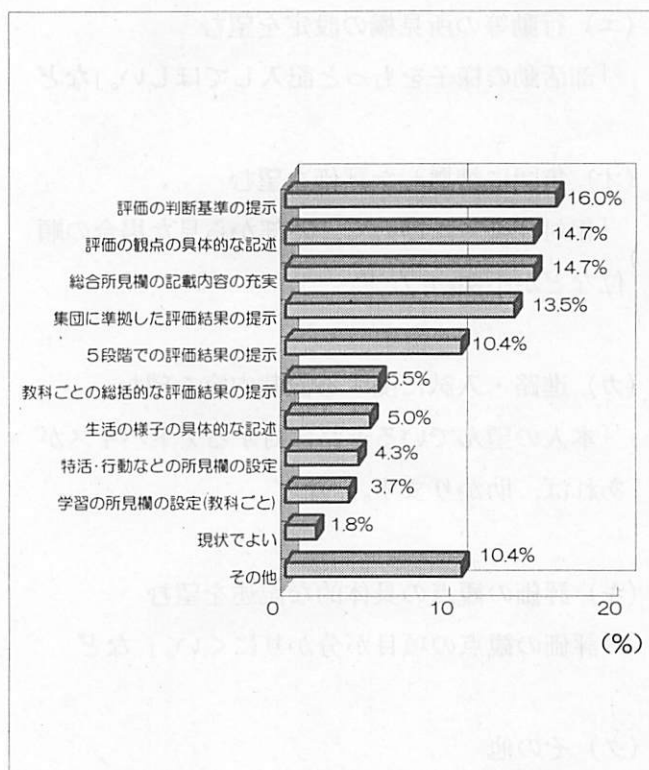


図9 現在の通信簿に対する要望 (小学生保護者)

小学生保護者から寄せられた要望では「評価の

判断基準の提示」「評価の観点の具体的な記述」  
「総合所見欄の記載内容の充実」が、それぞれ  
全体の約 15%を占め、「5段階での評価結果の提  
示」が続いた。

#### イ 中学生保護者 (自由記述回答を類型化)

##### (ア) 教科ごとに所見欄の設定を望む

「各教科の先生のコメントが何かの形でうかが  
えればと思っております。」など

##### (イ) 評価の判断基準の提示を望む

「テストのない教科に対する点のつけ方につい  
て何を基準にしているのか出してほしい。」など

##### (ウ) 説明の充実を望む

「学級担任との面談だけでなく、教科担任との  
面談の機会もご検討をお願いいたします。」など

##### (エ) 行動等の所見欄の設定を望む

「部活動の様子をもっと記入してほしい。」など

##### (オ) 集団に準拠した評価を望む

「相対評価でないので、外部から見た場合の順  
位などが不明。」など

##### (カ) 進路・入試に関する記載内容を望む

「本人の望んでいる進路に対するアドバイスが  
あれば、助かります。」など

##### (キ) 評価の観点の具体的な記述を望む

「評価の観点の項目が分かりにくい。」など

##### (ク) その他

「二学期制になり、年に二度しか記録が見られ  
ない。今までどおり三回というのは区切りが難  
しいかもしれないが、もっと短い期間の内容が

知りたい。」など

(自由記述回答を類型化)

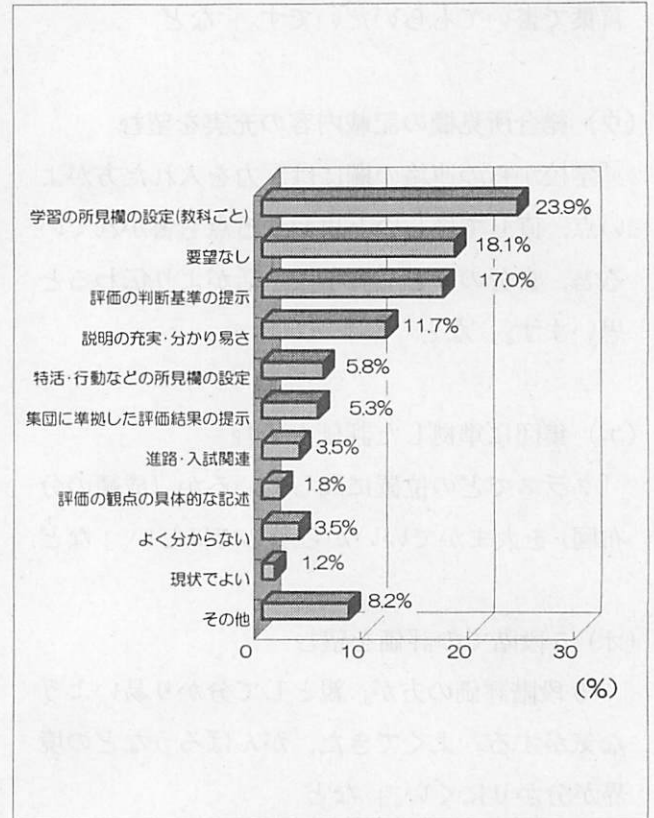


図 10 現在の通信簿に対する要望  
(中学生保護者)

中学生保護者から寄せられた要望では「教科ご  
との学習の所見欄の設定」が約 24%を占め、「評  
価の判断基準の提示」「説明の充実・分かり易さ」  
が続いた。

### (3) 評価結果の提示に関する小・中学校 教員の意識について

#### ① 評価結果の提示内容について

##### ア 児童生徒に対する評価結果の提示内容

(ア) 教員は児童生徒にどのような内容の評価結  
果を提示しているか

(多肢選択回答～複数回答)

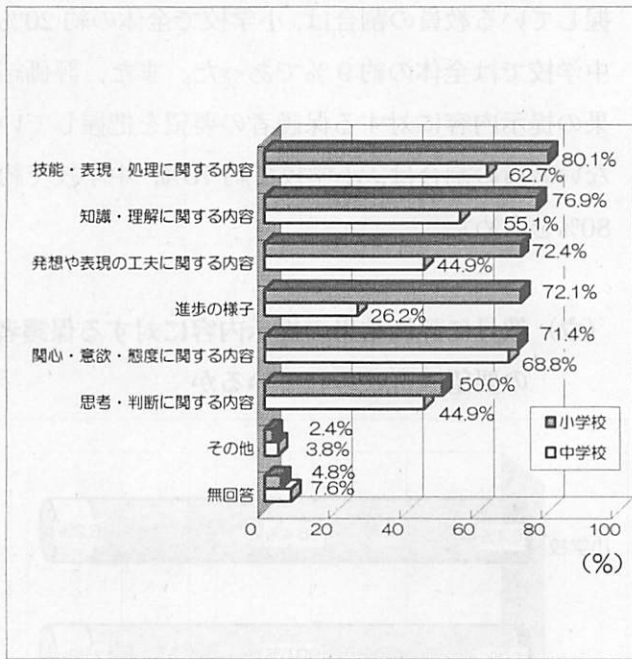


図 11 児童生徒に対する評価結果の提示内容

小学校教員の約 80%が児童生徒に対する評価結果の内容として「技能・表現・処理に関する内容」「知識・理解に関する内容」と回答し、約 70%が「発想や表現の工夫に関する内容」「進歩の様子」「関心・意欲・態度に関する内容」と回答した。

また、中学校教員の約 70%が「関心・意欲・態度に関する内容」と回答し、約 60%が「技能・表現・処理に関する内容」と回答した。

(イ) 教員は評価結果の提示内容に対する児童生徒の要望を把握しているか

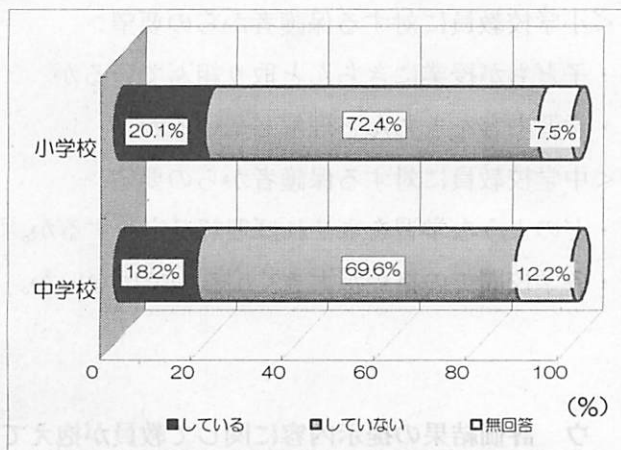


図 12 教員による児童生徒の要望の把握

評価結果の提示内容に対する児童生徒の要望を把握している教員の割合は、小学校で全体の約 20%，中学校では全体の約 18%であった。また、評価結果の提示内容に対する児童生徒の要望を把握していない教員の割合は、小学校・中学校ともに全体の約 70%であった。

(ウ) 教員に評価結果の提示内容に対する児童生徒の要望は寄せられているか

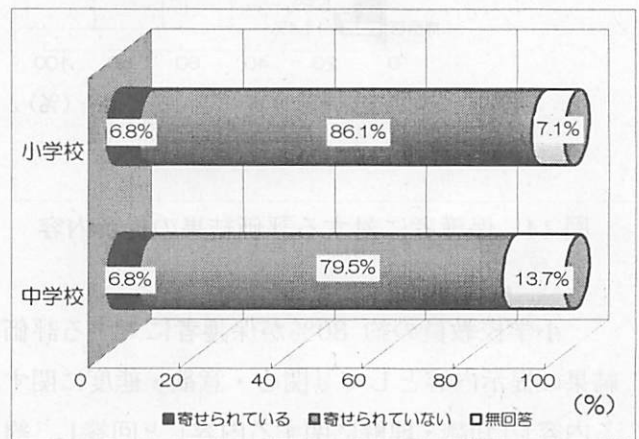


図 13 児童生徒の要望の有無

評価結果の提示内容に対して児童生徒から要望が寄せられていると回答した教員の割合は、小学校・中学校ともに全体の約 7%であった。また、児童生徒から要望は寄せられていないと回答した教員の割合は、小学校で 86%，中学校で約 80%だった。

なお、児童生徒から寄せられた要望の主な内容は次のとおりである。

<小学校教員に対する児童からの要望>

- ・各観点の判断根拠。

<中学校教員に対する生徒からの要望>

- ・どんな観点で判断基準としているのか。

イ 保護者に対する評価結果の提示内容

(ア) 教員は保護者にどのような内容の評価結果を提示しているか



(多肢選択回答～複数回答)

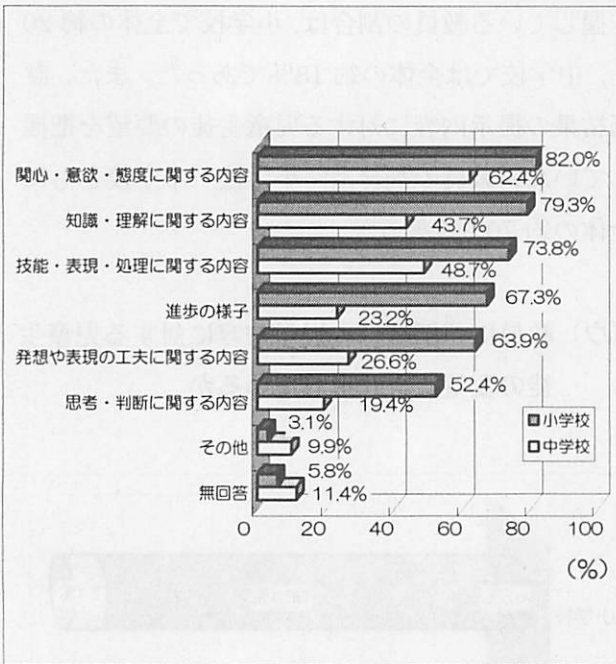


図 14 保護者に対する評価結果の提示内容

小学校教員の約 80%が保護者に対する評価結果の提示内容として「関心・意欲・態度に関する内容」「知識・理解に関する内容」と回答し、約 70%が「技能・表現・処理に関する内容」「進歩の様子」と回答した。

また、中学校教員の約 60%が保護者に対する評価結果の内容として「関心・意欲・態度に関する内容」と回答し、約 50%が「技能・表現・処理に関する内容」と回答した。

(イ) 教員は評価結果の提示内容に対する保護者の要望を把握しているか

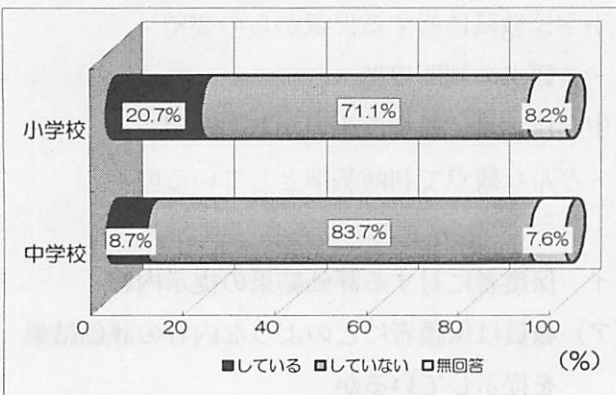


図 15 教員による保護者の要望の把握

評価結果の提示内容に対する保護者の要望を把握している教員の割合は、小学校で全体の約 20%、中学校では全体の約 9%であった。また、評価結果の提示内容に対する保護者の要望を把握していない教員の割合は、小学校で約 70%、中学校で約 80%を占めた。

(ウ) 教員に評価結果の提示内容に対する保護者の要望は寄せられているか

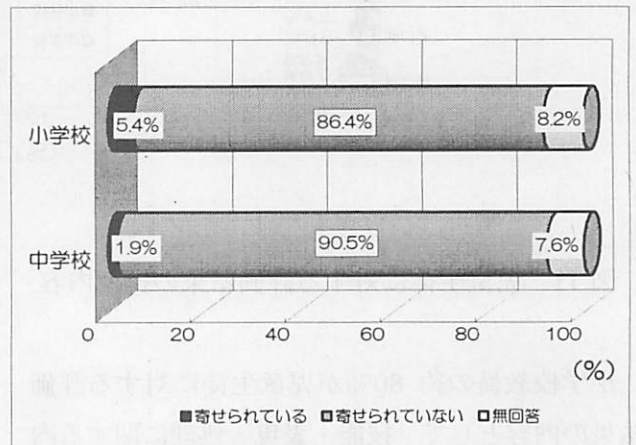


図 16 保護者の要望の有無

評価結果の提示内容に対して保護者から要望が寄せられていると回答した教員の割合は、小学校で全体の 5%、中学校で全体の約 2%であった。また、保護者から要望が寄せられていないと回答した教員の割合は、小学校が 86%、中学校が 90%だった。

なお、保護者から寄せられた要望の主な内容は次のとおりである。

<小学校教員に対する保護者からの要望>

- ・子どもが授業にきちんと取り組んでいるか。
- ・学習内容をきちんと理解しているか。

<中学校教員に対する保護者からの要望>

- ・どのような学習をさせれば理解が定着するか。
- ・各学校間での格差が大きく出るのはないか。

ウ 評価結果の提示内容に関して教員が抱えている課題

表 8 評価結果の提示内容に関する課題の件数

	回答者数	記入者数	件数
小学校	294 人	46 人 (15.6%)	48 件
中学校	263 人	38 人 (14.4%)	38 件

(ア) 小学校教員の課題 (自由記述回答を類型化)

・ 個への配慮

「次の意欲へとつなげていくための表現について課題として感じている。」など

・ 客観性

「教師の独断に陥っている可能性があり、どれだけ客観的な評価結果を提示しているか、疑問に感じる。」など

・ 保護者との評価観の違い

「保護者の方は、関心・意欲の評価より、知識・技能に対する評価の方を重視する傾向がある。また、子どもたちの進歩の様子より結果をすぐ期待する。」など

・ 時間不足

「判断基準を明らかにする必要があるが、提示資料として整理する時間が確保できないのが実情である。」など

・ 具体性

「より具体的に児童や保護者に伝えたいが、なかなかできない現状である。」など

・ その他

「短期的に到達した学力と身に付いた学力は違うので、標準化されたテストが(年一度ぐらい)はあってもよいと思う。」など

(自由記述回答を類型化)

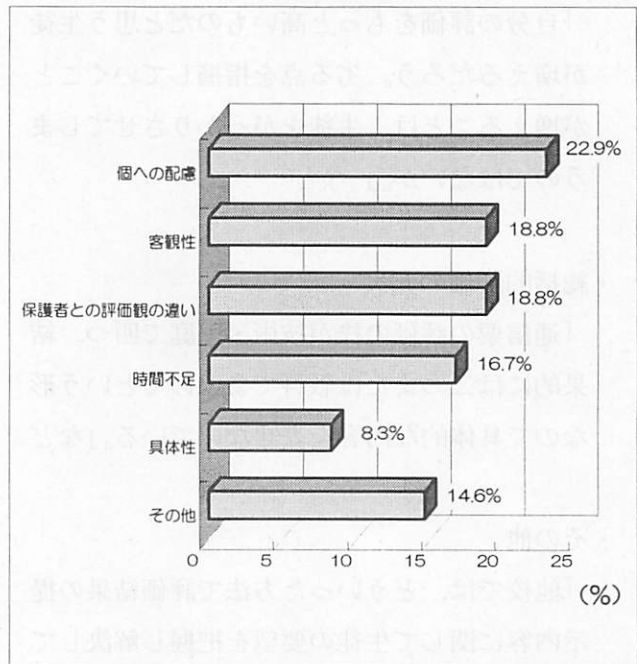


図 17 評価結果の提示内容に関して小学校教員が抱えている課題

評価結果の提示内容に関して小学校教員が抱えている課題として、「個への配慮」「客観性」「保護者との評価観の違い」が全体の約 20%を占め、「時間不足」がそれに続いた。

(イ) 中学校教員の課題 (自由記述回答を類型化)

・ 提示内容の量

「どこまで提示するのがよいか難しい。すべてというのも難しい。」など

・ 時間不足

「二学期制になり通信票の回数が減った。だからといって、中間に通信票を出す余裕はない。」など

・目標に準拠する評価の充実

「自分の評価をもっと高いものだと思う生徒が増えるだろう。劣る点を指摘していくことが増えることは、生徒をがっかりさせてしまうのではないか。」など

・総括的評価の充実

「通信票の評価の枠が技術・家庭で四つ。結果的には二つまたは教科でまとめてという形なので具体的な内容を表せないでいる。」など

・その他

「他校では、どういった方法で評価結果の提示内容に関して生徒の要望を把握し解決しているか知りたい。」など

(自由記述回答を類型化)

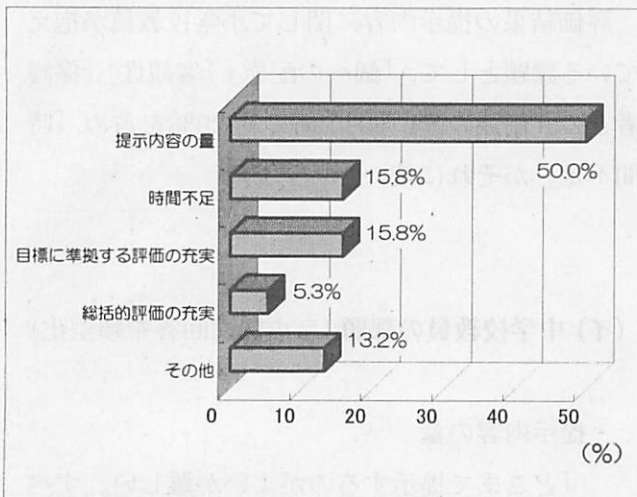


図 18 評価結果の提示内容に関して中学校教員が抱えている課題

評価結果の提示内容に関して中学校教員が抱えている課題として、「提示内容の量」が全体の 50% を占め、「時間不足」「目標に準拠する評価への充実」が約 16% で続いた。

② 評価結果の提示方法について

ア 教員は児童生徒にどんな方法で評価結果を提示しているか

(多肢選択回答～複数回答)

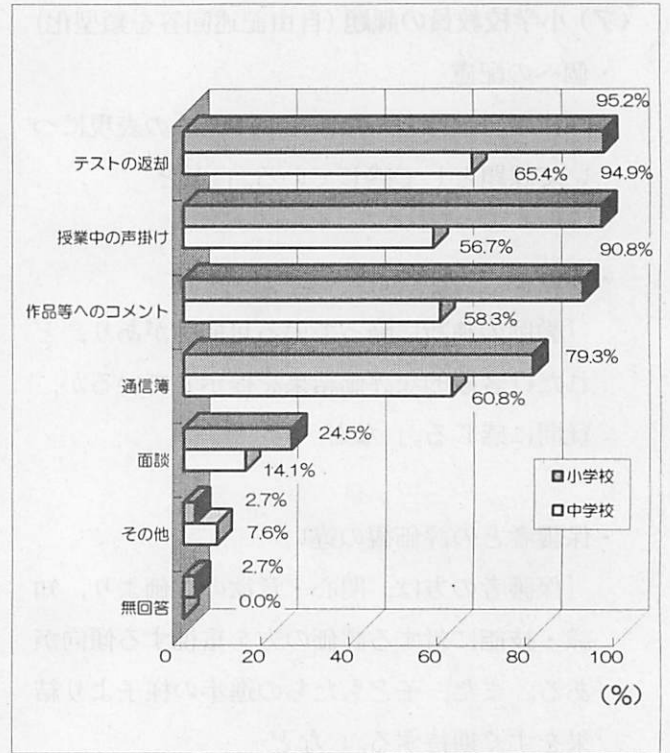


図 19 児童生徒に対する評価結果の提示方法

児童生徒に対する評価結果の提示方法として、小学校教員は「テストの返却」「授業中の声掛け」が約 95% を占め、「作品等へのコメント」が約 90%、「通信簿」が約 80% で続いた。

中学校教員は「テストの返却」が 65% を占め、「通信簿」「作品等へのコメント」「授業中の声掛け」が約 60% で続いた。

イ 教員は保護者にどんな方法で評価結果を提示しているか

(多肢選択回答～複数回答)

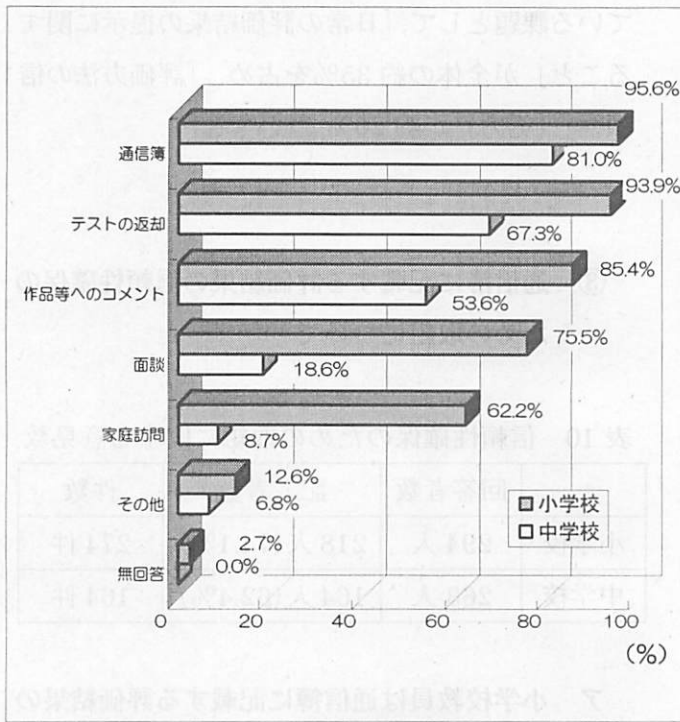


図 20 保護者に対する評価結果の提示方法

保護者に対する評価結果の提示方法として、小学校教員では「通信簿」「テストの返却」が約 95% を占め、「作品等へのコメント」が 85% で続いた。

中学校教員では「通信簿」が約 80% を占め、「テストの返却」が約 70%、「作品等へのコメント」が約 50% で続いた。

### ウ 評価結果の提示方法に関して教員が抱えている課題

表 9 評価結果の提示方法に関する課題の件数

	回答者数	記入者数	件数
小学校	294 人	41 人 (13.9%)	42 件
中学校	263 人	22 人 (8.4%)	23 件

#### (ア) 小学校教員の課題 (自由記述を類型化)

##### ・通信簿に関すること

「通信票の場合、何がどう劣っているのか、優れているのか、保護者は具体的に理解でき

ているか疑問であり、不安でもある。」など

##### ・日常の評価結果の提示に関すること

「作品にコメントを書くとき、どんな点を評価するか迷うときがある。」など

##### ・面談と家庭訪問に関すること

「希望者に個人面談の時間を設けているが、担任が評価結果を伝えて協力をもらいたいという親が面談を希望してくれない。」など

##### ・労力に関すること

「あらゆる作品、ノート、ワークシート等にコメントしたいと思うが、実際にはなかなかできない。」など

##### ・その他

「いろいろ課題があり、今後、さらに検討したい。」など

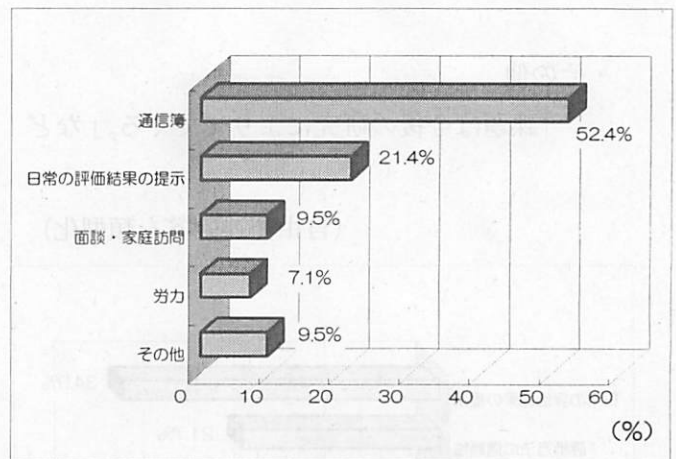


図 21 評価結果の提示方法に関して小学校教員が抱えている課題

評価結果の提示方法に関して小学校教員が抱えている課題として、「通信簿に関すること」が全体の約 50% を占め、「日常の評価結果の提示に関すること」が約 20% で続いた。

## (イ) 中学校教員の課題 (自由記述を類型化)

- ・ 日常の評価結果の提示に関すること  
「何をどのように提示することが生徒のプラスになるかを考えていきたい。」など
- ・ 評価方法の信頼性に関すること  
「評価規準の設定と評定との関係を、どう客観性・妥当性をもたせ、保護者や生徒に納得いくものにしていくか。」など
- ・ 労力に関すること  
「時間がなくて、きちんと作品等へのコメントの記入ができない。」など
- ・ 通信簿に関すること  
「機械打ち出しの冷たさと表現力の限界は否めない。」など
- ・ 評価方法の説明に関すること  
「具体的な評価方法について、通信票等どの程度書き入れるべきか。」など
- ・ その他  
「課題は今後の研究によりでてくる。」など

(自由記述回答を類型化)

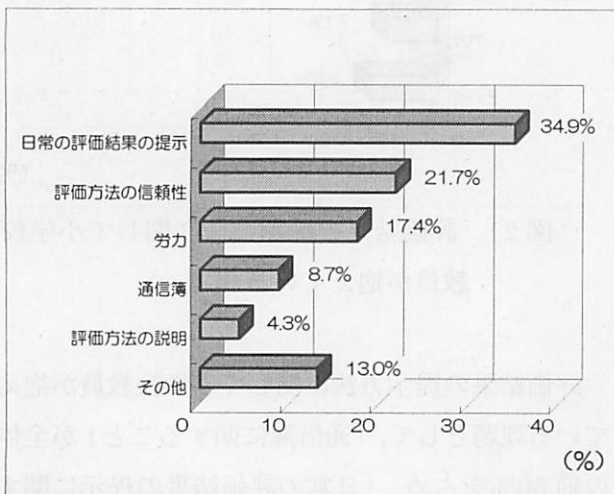


図 22 評価結果の提示方法に関して中学校教員が抱えている課題

評価結果の提示方法に関して中学校教員が抱えている課題として、「日常の評価結果の提示に関すること」が全体の約 35%を占め、「評価方法の信頼性」「労力」が約 20%で続いた。

### ③ 通信簿に記載する評価結果の信頼性確保のための取組について

表 10 信頼性確保のための取組に関する意見数

	回答者数	記入者数	件数
小学校	294 人	218 人 (74.1%)	274 件
中学校	263 人	164 人 (62.4%)	164 件

#### ア 小学校教員は通信簿に記載する評価結果の信頼性確保のためにどんな取組をしているか (自由記述回答を類型化)

- ・ 評価結果を蓄積する  
「評価の資料を整理し、なるべく多くのデータを保存しておく。」など
- ・ 多様な評価方法を取り入れる  
「ペーパーテストのみに偏らないように、ワークシートや児童の作成資料等、多くの評価のための資料を集め、その都度よく検討し、評価していく。」など
- ・ 保護者に評価に関して詳しい説明を行う  
「評価項目の内容、到達度などを保護者に詳しく知らせるようにする。」など
- ・ 評価規準や判断基準を明確にする  
「評価規準を明確にし、それに照らし合わせて評価する。」など
- ・ 学級担任間で共通理解を図る  
「学級担任間であまり違いのないように十分

話し合う。」など

- ・通信簿の記載内容を充実させる  
「個人の努力した点をできるだけ具体的に通信票に記述し、さらに意欲的に学習に取り組めるような配慮をする。」など
- ・指導力の向上  
「分かる授業の実践を常に心掛ける。」など
- ・その他  
「意識はしているが、実際には何もしていない。」など

(自由記述回答を類型化)

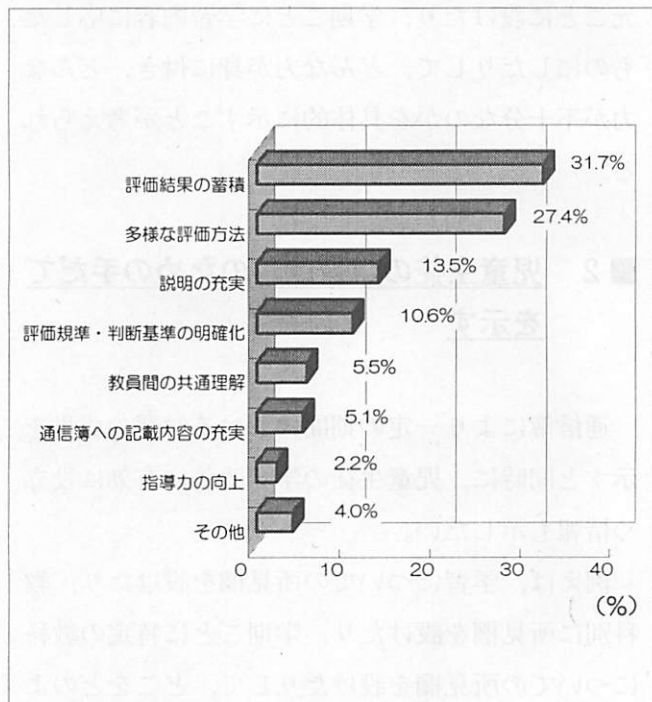


図 23 評価結果の信頼性確保のための小学校教員の取組

評価結果の信頼性確保のための小学校教員の取組として、「評価結果の蓄積」と「多様な評価方法」が、それぞれ全体の約 30% を占め、「説明の充実」「評価規準・判断基準の明確化」が続いた。

イ 中学校教員は通信簿に記載する評価結果の信頼性確保のためにどんな取組をしているか (自由記述回答を類型化)

- ・評価結果を蓄積する  
「評価の資料となるものをたくさん集め、いろいろな角度から評価するようにしている。」など
- ・評価規準や判断基準を明確にする  
「評価規準を明確にする。」など
- ・保護者や生徒に評価に関する詳しい説明を行う  
「評価の仕方を生徒・保護者に提示する。」など
- ・自己評価を取り入れる  
「自己評価で各自の取組について理解を深め、問題点や努力点を提示させる。」など
- ・補助簿を充実させる  
「補助簿をしっかりと作成する。」など
- ・多様な評価方法を取り入れる  
「テストだけでなく、提出物や授業への取組など、すべてを点数化し、総合的に評価するようにしている。」など
- ・教員間で共通理解を図る  
「できるだけ教科の中で共通理解を図り、評価の整合性を図りたい。」など
- ・計画的に評価を実施する  
「毎時間の評価活動を計画的に行うように努力している。」など

- ・その他  
「生徒をよくみて評価しようと心掛けている。」  
など

(自由記述回答を類型化)

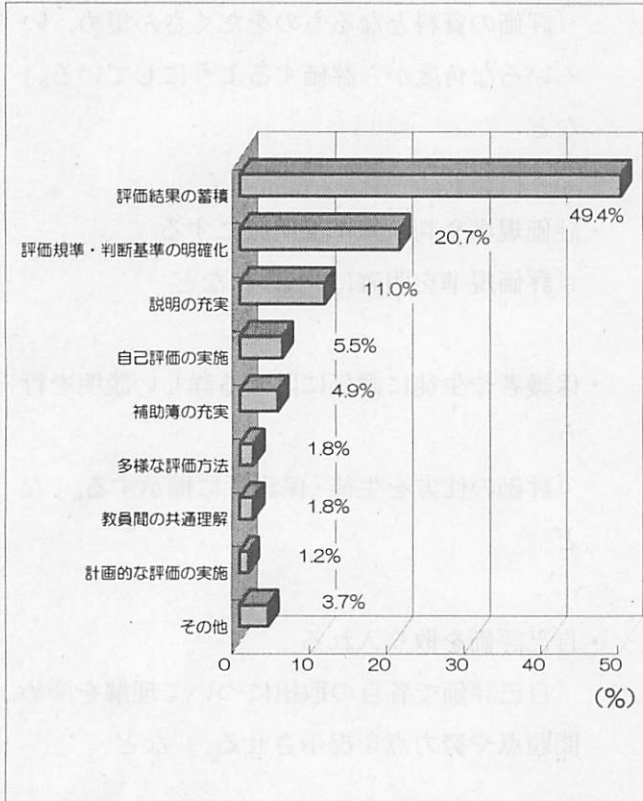


図 24 評価結果の信頼性確保のための中学校教員の取組

評価結果の信頼性確保のための中学校教員の取組として、「評価結果の蓄積」が全体の約 50%を占め、「評価規準・判断基準の明確化」が約 20%で続いた。

## V 児童生徒・保護者、教員の声を生かした通信簿改善・充実の五つのポイント

通信簿に対する児童生徒や保護者の要望、教員が抱える課題を踏まえると、通信簿の改善と充実を進める際には次のポイントを押さえる必要があると考える。

- 1 具体的な学習状況と目標に対する実現状況を分かり易く示す
- 2 児童生徒の学習改善のための手だてを示す
- 3 評価の判断基準や方法を示す
- 4 通信簿を補う手だてを工夫する
- 5 日常的に指導に生かす評価を充実させる

### ■ 1 具体的な学習状況と目標に対する実現状況を分かり易く示す

一定の期間にどのような学習が行われ、目標に対する実現状況はどうかについての情報を児童生徒や保護者に分かり易く示したい。

例えば、通信簿の観点別学習状況の評価欄を単元ごとに設けたり、学期ごとに学習内容に応じたものにしたりして、どんな力が身に付き、どんな力が不十分なのかを具体的に示すことが考えられる。

### ■ 2 児童生徒の学習改善のための手だてを示す

通信簿により一定の期間における学習の成果を示すと同時に、児童生徒の学習改善に有効に役立つ情報も示したい。

例えば、学習についての所見欄を設けたり、教科別に所見欄を設けたり、学期ごとに特定の教科についての所見欄を設けたりして、どこをどのように学習すればよいかを具体的に示すことが考えられる。

### ■ 3 評価の判断基準や方法を示す

評価の判断基準や方法について学校としての考え方を示したい。

例えば、年度初めや学期末に学校懇談会を開催

し、保護者に評価の判断基準や方法、通信簿の見方について具体的な資料を示して説明することが考えられる。

また、児童生徒に対しても発達段階に応じて評価の判断基準や方法、通信簿の見方について説明することが必要だと考える。

#### ■ 4 通信簿を補う手だてを工夫する

通信簿が児童生徒の学習の改善に生かされるようにするためには、児童生徒の学習成果や学習改善のための手だてなどを提示することが求められる。ただ、通信簿で提示できる情報量には限りがあるので、通信簿が児童生徒の学習改善に生かされるようにするためには、通信簿の様式を工夫する一方で、通信簿を補う手だても考えていく必要があると考える。

例えば、個別懇談や家庭訪問を通じて児童生徒の学習成果や学習改善のための手だてなどを児童生徒や保護者に説明したり、教科ごとに単元の終了時に児童生徒の学習成果や学習改善のための手だてなどを児童生徒や保護者に提示したりすることなどが考えられる。

#### ■ 5 日常的に指導に生かす評価を充実させる

日常的に指導に生かす評価を充実させ、児童生徒の学習の到達度を適切に評価し、具体的な学習状況や評価結果を通信簿に累積していくなど、評価を学期末に集中させないようにしたい。

そのために、通信簿の観点別学習状況の評価欄を單元ごとに設けたり、評価の観点を具体的な学習項目として表現したりするなどして、日常の児童生徒の学習状況や評価結果を累積できるような

通信簿の様式を工夫することが考えられる。

また、作業量を軽減するために、通信簿の様式をあらかじめPC（パーソナルコンピュータ）に入力し、日常の児童生徒の学習状況や評価結果をPCにより整理できるようにする必要もあると考える。

## VI おわりに

通信簿は、その記載内容や様式などについては各学校の判断で決められるものである。したがって、従来、通信簿の記載内容や様式などについてその改善と充実は、各学校の判断で進められることが多かった。

しかし、通信簿の役割を考えてみると、通信簿の改善と充実のための新しい取組が必要だと考える。通信簿は、学校と保護者との双方向コミュニケーションを図ったり、児童生徒の学習の改善を支援したりする役割を担っている。このことを考えると、通信簿の受け手となる児童生徒や保護者の要望を把握しつつ通信簿の改善と充実を進めていくことが大切であると考えられる。

そこで、本研究は、本市小・中学校の通信簿に対する児童生徒や保護者、教員の意識調査を実施し、本市小・中学校の通信簿の改善と充実に資する方策を探った。児童生徒や保護者、教員の意識調査の結果をもとに小・中学校の通信簿の改善と充実のためのポイントを整理した。また、整理したポイントをもとに、児童生徒と保護者の要望を生かし、教員が抱える課題の解消を目指した通信簿例と保護者への説明文例を提案することができた。今後、本市小・中学校が通信簿の改善と充実に際の一助になれば幸いである。



## ●参考文献

- ・教育課程審議会 2000『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について (答申)』
- ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター 2002『評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料 —評価規準, 評価方法等の研究開発 (報告) —』
- ・石田恒好 2002『新・通信簿』図書文化社
- ・井上正明 2002『通知表工夫・記入事例集』教育開発研究所

## ●委嘱研究員

宮城教育大学教授	西林 克彦
有 識 者 (保護者)	庄司美知子
仙台市立東宮城野小学校教諭	菊地 道子
仙台市立住吉台小学校教諭	木越 研司
仙台市立東二番丁小学校教諭	熊本 清孝
仙台市立宮城野中学校教諭	佐藤 献嗣
仙台市立上杉山中学校教諭	鈴木 直行

## ●長期研修員

仙台市立吉成小学校教諭	富山 英明
仙台市立蒲町中学校教諭	甲斐 裕幸

## ●教育局教育センター

主任指導主事	今野 英二
指導主事	新山 弘幸
指導主事	今野 克則
指導主事	齋藤 嘉則
○指導主事	猪股 亮文

○は事務局担当



**工夫点1・2 単元ごとの評価・単元ごとの観点別評価**

二学期制の導入によって、一つの学期の学習内容が増えました。長期にわたる学習活動全体を総合的に評価すると、何ができて何ができなかったのかが保護者に伝わらないことが考えられます。そこで、単元や学習内容ごとに観点別の評価ができるようにしました。

そのことによって、学期末にだけ通信簿を記入するのではなく、単元終了時に記入しておけるようになります。

また、学習内容によっては、ねらいを定めていない観点が考えられます。そこで、学年で指導と評価に関する共通理解をしながら、評価しない観点には斜線を引くようにします。

**工夫点3 単元のねらい（主な学習内容）を明示**

単元名とそこで学習する主な内容を明示しました。どんな学習内容について評価しているのかが保護者に分かり易くなるようにしました。

第2学年用

教科	単元名（主な学習内容）	評価の観点				
		関心・意欲・態度	話す力・聞く力	文や文章を書く力	読む力・読解力	言葉の基礎的な力
国語	ふきのとう (みんなで読もう)	○		○	○	○
	たんぼほのちえ (わけをかंगाえながら読もう)		○			○
	お手紙こうかん会 (友だちに手紙を書こう)	○				○
	スイミー (すきなお話を読もう)	○	○			○
	あったらいいな、こんなもの (話し方をくふうしてはっぴょうしよう)	○	○			○
	サンゴの海の生きものたち (だいじなところに気をつけて読もう)				○	○
	お手紙 (ようすを考えて読もう)	○				○
	三まいのおふだ (お話を聞こう)	○			○	○

(斜線は評価しない観点の一例)

**工夫点4 国語・算数にはそれぞれ所見欄**

国語と算数にはそれぞれ所見欄を設けました。学習や生活の基礎・基本となる言葉や読み・書き・計算等について子どもの努力事項や担任の指導方針を記述し、確実に身に付けさせたいと考えました。

国語	1学期 「あったらいいな、こんなもの」では、相手に分かりやすく発表していました。質問にも言いたいことを整理して答えることができました。今後は読書にも興味をもたせるような指導をしたいと考えています。
	2学期

**工夫点5**  
**6**  
**7**

**学習内容ごとの評価**  
**学習内容ごとに観点別評価**  
**具体的な単元や活動を記述**

音楽と図画工作、体育については複数の教材や活動で内容が構成されているため「表現」「鑑賞」「基本の運動」「ゲーム」などの内容ごとに観点別の評価をするようにしました。

また、顕著に力を発揮していた単元・活動などを「なかよしマーチの合奏」「マット遊び」などと具体的に記述することにより、保護者に子どもの努力のあとや得意なことについて知らせるとともに、子どもに自信を与えていきたいと考えました。

その際には、教師の負担が過度に増加しないように、具体的な単元名や活動を簡潔に記述します。

教科によって観点が異なっているので、該当しない観点には斜線が引いてあります。学校で通信簿を作成する際に、各教科の観点とその趣旨を踏まえて、通信簿の観点を四つ程度に絞るなどの工夫をすると、見易くなります。(例えば「関心・意欲・態度」「創意・工夫や考え方」「技能・表現」「感じ方や気付き」など)

第2学年用 ○印は「おおむね満足できる」状況を表す

教科	評価の観点 学習内容	学期	関心・意欲・態度	技能	鑑賞の能力	感受・表現の工夫	発想・構想の能力	思考・判断	思考・表現	気付き	顕著に力を発揮していた 単元・活動など
音楽	表現	1学期	○	○							鍵盤ハーモニカの演奏が上手にできた。
		2学期									
	鑑賞	1学期	○		○	○					楽器の音色を聞き分けることができた。
		2学期									
生活科	野菜を育てよう		○						○	○	葉の数が増えることに気付き、野菜の生長の様子を細かく観察カードにまとめていました。探検では虫かごや網を用意してきて、意欲的に活動していました。
	公園探検に行こう		○						○	○	

(斜線は、該当しない観点)

**工夫点8**

**生活科は文章記述と観点別評価**

生活科については、各学期の活動を記入し、その活動について観点別の評価を取り入れるとともに、具体的な活動や体験の広がりや深まり、その子どものよさ、実践的な態度などを文章で記述します。

## ■保護者への説明文例（2年生）

### ◆通信簿の見方について

通信簿は、お子さんの学校での学習や行動の様子についてお知らせするものです。お子さんの努力のあとやよさを読みとっていただきたいと思います。

### 《評価の基本的な考え方について》

学習指導要領に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価しお子さんの学習の到達度を評価します。なお、評価の観点は、基本的に「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四つの観点により構成しています。

また、自ら学ぶ意欲や問題解決の能力、個性の伸長などに資するように、お子さんのよい点や可能性、進歩の状況なども評価していきます。

### 《評価の観点とは》

各教科の単元や学習内容について、様々な角度からの目標と指導の方向性を示しています。また、その目標について、学習の実現状況を見る目安にもなっています。

例えば、

2年生の算数の評価の観点は、

「関心・意欲・態度」「筋道を立てた思考」「計算や測定の技能」「意味や性質の理解」と設定しています。

「たし算のしかたをかんがえよう」（たし算のひっ算）という単元を例にとれば、観点の趣旨は次のようになります。

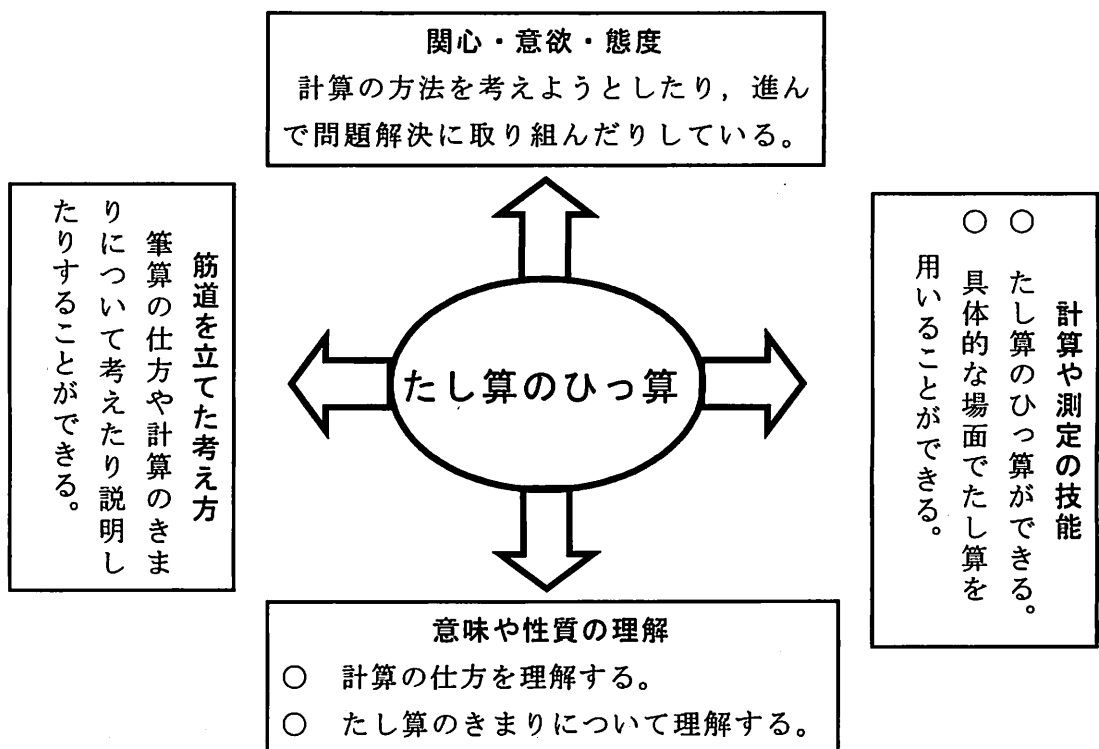


図1 評価の観点の趣旨（単元「たし算のしかたをかんがえよう」）

このように、たし算のひっ算が技能的に「できる」か「できない」かだけではなく、四つの観点から目標を定め、その実現状況を評価し、お子さんの学習の到達度を評価します。

それぞれの観点について「おおむね満足できる」状況であると判断した場合に○印をつけています。

国語では単元や学習内容によっては、評価の観点に斜線が引かれています。それは、その観点については、その学習において特にねらいを定めていないことを示しています。

また、音楽、図画工作、体育、生活科では、その教科の特性によって観点が異なります。そこで、その教科の特性を踏まえた観点から評価するために、該当しないものについては斜線が引いてあります。

### 《どのように学習の状況を判断しているか》

学習内容について「おおむね満足できる」状況かどうかの判断は、次のような資料で行っています。

- ・ 学習に取り組む態度、発言の内容 など
- ・ 作品、作文、ノートの記述内容、プリントの記述内容 など
- ・ 単元終了時のワークテスト など

これらの資料を基にして、総合的に判断します。

### 《音楽の「表現」「鑑賞」とは》

- 「表現」
- ・ 音楽を聴いて演奏できるようにする。
  - ・ 曲の気分や特徴を感じ取って、工夫して表現できるようにする。
  - ・ 歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。
  - ・ 音楽をつくって表現できるようにする。

- 「鑑賞」
- ・ 音楽を聴いてそのよさや楽しさを感じ取るようにする。

### 《図工の「表現」「鑑賞」とは》

- 「表現」
- ・ 材料をもとにした楽しい造形活動をするようにする。(造形遊び)
  - ・ 感じたことや想像したことなどを絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりするようにする。

- 「鑑賞」
- ・ かいたり、つくったりしたものをみることに関心をもつようにする。

### 《体育の「基本の運動」「ゲーム」とは》

「基本の運動」

- ・ かけっこ・リレー遊び、幅跳び遊び、ゴム跳び遊びなどの「走・跳の運動遊び」
- ・ 押す、引く、運ぶ、支えるなどの「力試しの運動遊び」
- ・ 固定施設、マット、鉄棒、平均台、跳び箱などの「器械・器具を使ったの運動遊び」
- ・ なわ、輪、竹馬などの「用具を操作する運動遊び」
- ・ 「水遊び」「表現リズム遊び」

「ゲーム」

- ・ ボールゲーム、鬼遊び

**《「顕著に力を発揮していた単元・活動」とは》**

各教科の内容に関して、特に努力していた単元や力を発揮した活動について具体的に示しています。

**《生活科の評価は》**

学期に行った活動について、具体的な活動や体験の広がりや深まり、お子さんのよさ、実践的な態度などを文章で記述しています。

また、評価の観点については「おおむね満足できる」状況であると判断した場合に○印をつけています。

**《個人面談に応じます》**

お子さんの学校での様子について、より詳しくお知りになりたい方は、担任へお申し出ください。

# 小学校 学習のめあてを分かり易く表現した通信簿例

## ■作成のねらい

### ◎子どもにやる気を！

・具体的な学習のめあてを示すことにより、何ができるようになったかがはっきりし、次に頑張ればよいところがよく分かって、学習へのやる気がわくようにしました。

### ◎保護者に分かり易く！

・具体的な学習のめあてにそった評価と所見欄を設けることにより、保護者も学習の様子が詳しく分かり、家庭でほめたりアドバイスしたりしやすくなるようにしました。

### ◎教員が記入しやすく！

・普段の評価の積み重ねを通信簿に記入できるように、具体的な学習のめあてを学習の流れにそった形で示しました。

・指導要録に記入しやすいように、指導要録の観点ごとに学習のめあてを示しました。

## ■通信簿例(3年生)

第3学年1学期

### ☆工夫点1

【指導要録の観点に準じている】

教科	観 点	学 習 の め あ て	実現状況	
			よくできた	もう少しできた
国語	関心・意欲・態度 話す・聞く能力	進んで話し合ったり、書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。 大切なことをメモしながら聞いている。 事柄の順序を考えながら話している。 伝えたいことをわかりやすく説明している。		
	書く能力 読む能力	調べたことや考えたことの中心をはっきりさせて、わかりやすくまとめている。 声の大きさや速さに気をつけて文章を読んでいる。 中心となる語や文を押さえて読んでいる。		
	言語についての知識・理解・技能	語句を正しく丁寧に書いている。 主語、述語、修飾語の関係を理解している。 丁寧な言葉を使って話している。		
音楽	関心・意欲・態度 表現の工夫 表現の技能	進んで歌唱や楽器の表現をしたり、鑑賞したりしようとする。 歌声や楽器の音色のよさや曲の特徴を感じ取って、表現を工夫している。 範疇を聴いて、呼吸や発音に気をつけながら工夫して歌っている。 範奏を聴いて、フレーズに気をつけながら工夫して楽器を演奏している。		
	鑑賞の能力	曲想の変化や曲の特徴を感じ取って聴く。		
図画 工 作	関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力	進んで造形活動に取り組み、造形活動を楽しもうとする。 自分らしい発想をしたり、作りたいものの美しさや用途を考えるなど構想したりする。 材料や用具などの特性を生かして、表し方を工夫して作品を仕上げる。 表し方や材料の感じの違いが分かり、親しみのある美術作品について関心をもって見る。		
	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	約束やきまりを守り、安全に気をつけ楽しく運動しようとする。 毎日の生活と健康とのかかわりについて関心をもち、進んで学習に取り組もうとする。		
	運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能	運動の特性に合った課題をもち、活動の仕方を考え、工夫している。 毎日の生活と健康とのかかわりについて、課題解決を目指して考え、判断している。 全力でかけっこやリレーに取り組み、バトンパスができる。 鉄棒でいろいろな振り方、上がり方、回り方ができる。 バスやドリブルを使ってボールゲームができる。 友達と気持ちを合わせて楽しく踊ることができる。 伏し浮きからの立ち上がりや、け伸び、ばた足泳ぎやかえる足泳ぎができる。 マットを使って、いろいろなころがる動きなどができる。		
育	健康・安全の知識・理解	毎日の生活と健康とのかかわりについて基礎的なことを理解し、知識を身に付けている。		
所見欄				

### ☆工夫点2・3

【具体的な学習のめあてを示している】

### ☆工夫点4

【学習の所見欄】



### 工夫点1 指導要録の観点に準じている

教師にとってよりシンプルでしかも学年末に改めて指導要録の観点で評価し直さなくてもよいように、指導要録の観点に準じた形式にしました。これによって保護者や子どもに示す通信簿と指導要録が一体化します。

教科	観 点	学 習 の め あ て
国	関心・意欲・態度	進んで話し合ったり、書いた
	話す・聞く能力	大切なことをメモしながら聞き事柄の順序を考えながら話し伝えたいことをわかりやすく
	書く能力 読む能力	調べたことや考えたことの中心声の大きさや速さに気をつけて中心となる語や文を押さえて
語	言語についての知識・理解・技能	語句を正しく丁寧に書いてい主語、述語、修飾語の関係を丁寧に言葉を使って話してい

### 工夫点2 具体的な学習のめあてを設定している

指導要録の観点だけでは、保護者や子どもにとって具体性に欠け、分かりにくいので、具体的な学習のめあてを示しました。めあてごとの学習の実現状況を見れば、保護者や子どもは、できるようになったことやまだ十分できないことは何かがよく分かります。

理科	関心・意欲・態度	進んで自然の事物・現象を調べ、学んだことを生活に生かそうとする。			
	科学的な思考	自然の事物・現象を比較しながら問題を見だし解決することができる。			
	技能・表現	植物や昆虫の体のつくりを虫眼鏡を使って観察し記録することができる。			
		温度計や方位磁針を使って観察した結果を記録することができる。			
	知識・理解	植物の育ち方のきまりや体のつくりを理解している。			
		昆虫の育ち方のきまりや体のつくりを理解している。			
		日なたと日陰の違いや太陽と影の関係を理解している。			

### 工夫点3 1学期と2学期それぞれの教科ごとに学習のめあてを設定している

さらに、学期ごと教科ごとにできるだけ学習の流れにそっためあてを示しました。

例えば、3学年の算数の「表現・処理」は、1学期の学習のめあてが「0や10、何十や何百のかけ算ができる。」「かけ算九九を1回使うわり算やあまりのあるわり算ができる。」などですが、2学期には「2位数、3位数×1位数のかけ算ができる。」や「2位数×2位数のかけ算ができる。」などのめあてになります。

〔第3学年1学期〕

社会	関心・意欲・態度	学校の周りに関心を持ち、進んで調べようとする。			
		仙台市に関心を持ち、地域の一員として進んで調べようとする。			
	思考・判断	地域の様子を自分の生活とのかかわりから考え、適切に判断する。			
	技能・表現	課題にそって観察・調査し、調べた結果を地図や絵や文、図表・グラフに表現する。			
算数	知識・理解	学校のまわりの様子を理解している。			
		仙台市の人々の生活と自然環境や社会環境との結びつきを理解している。			
		自分のくらしと商店街の結びつきを理解している。			
		生産活動の特色や工夫と他地域との結びつきを理解している。			
数	関心・意欲・態度	数量・図形の性質や筋道を立てて考えることの楽しさに気づき、進んで学習しようとする。			
	数学的な考え方	見通しを持ち、筋道を立てて考える。			
	表現・処理	0や10、何十や何百のかけ算ができる。			
		かけ算九九を1回使うわり算やあまりのあるわり算ができる。			
数		資料を表に整理したり、グラフに表したりすることができる。			
	知識・理解	時刻と時間の意味や分と秒の関係を理解している。			
		かさの意味やlとdl、mlの関係を理解している。			
		巻尺を使って長さを測定し、mとkmの関係を理解している。			

[第3学年2学期]

社会	関心・意欲・態度	火災防止のための活動に関心をもち、関連機関の働きを進んで調べようとする。 交通事故や盗難から、地域の人々を守る活動について進んで調べようとする。			
	思考・判断	くらしを守る仕事に携わる人々の工夫や努力を考え、適切に判断する。			
	技能・表現	調べたことをわかりやすく絵や文、劇などで表現する。			
	知識・理解	火災からくらしを守るための組織的・計画的な活動やその工夫や努力を理解している。 交通事故や盗難からくらしを守るための組織的・計画的な活動やその工夫や努力を理解している。			
算数	関心・意欲・態度	数量・図形の性質や筋道を立てて考えることの楽しさに気づき、進んで学習しようとする。			
	数学的な考え方	見通しを持ち、筋道を立てて考える。			
	表現・処理	3位数同士のたし算やひき算ができる。 2位数、3位数×1位数のかけ算ができる。 2位数×2位数のかけ算ができる。			
	知識・理解	直角の意味や正方形、長方形、直角三角形などの性質を理解している。 千万までの数のしくみを理解している。 重さの意味やgとkgの関係を理解している。 箱の形のものを観察したり作ったりしながら、構成要素(面・頂点・辺)を理解している。			

**工夫点4 学習について具体的な努力の様子を示すための所見欄を設定している**

子どもの頑張りや努力の必要なところを保護者がほめたりアドバイスしたりできるように、「どんなことを努力していたか」「今後の学習の方向性や努力のさせ方」等について、所見欄に具体例を挙げながら詳しく文章で記入します。所見欄は、評価欄を見る際の参考になるように評価欄の下部分に設定しています。

教科	観 点	学 習 の め あ て	実現状況		
			よくできた	できた	もう少し
国語	関心・意欲・態度 話す・聞く能力	進んで話し合ったり、書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。		○	
		大切なことをメモしながら聞いている。	○		
		事柄の順序を考えながら話している。 伝えたいことをわかりやすく説明している。		○	
	書く能力 読む能力	調べたことや考えたことの内容をはっきりさせて、わかりやすくまとめている。		○	
		声の大きさや速さに気をつけて文章を読んでいる。 中心となる語や文を押さえて読んでいる。		○	○
言語についての 知識・理解・技能	語句を正しく丁寧に書いている。	○			
	主語、述語、修飾語の関係を理解している。 丁寧な言葉を使って話している。		○		
算数	関心・意欲・態度 数学的な考え方	数量・図形の性質や筋道を立てて考えることの楽しさに気づき、進んで学習しようとする。		○	
		見通しを持ち、筋道を立てて考える。		○	
	表現・処理	0や10、何十や何百のかけ算ができる。 かけ算九九を1回使うわり算やあまりのあるわり算ができる。 資料を表に整理したり、グラフに表したりすることができる。			○
		時刻と時間の意味や分と秒の関係を理解している。		○	
知識・理解	かさの意味やlとdl、mlの関係を理解している。		○		
	巻尺を使って長さを測定し、mとkmの関係を理解している。		○		
所見欄	漢字の練習に意欲的に取り組み、正しく書けるようになりました。音読も自信を持ってできるようになりましたが、内容の読み取りが不十分なことがあります。中心となる文をおさえて読めるように指導していきます。算数ではわり算の仕方は理解できましたが、かけ算九九を完全に覚えていないために間違っていました。九九を繰り返し復習するように声かけをしています。				

## ■ 保護者に対する説明文の内容例

### ◆ 通信簿の見方について

通信簿は、学校でのお子さんの学習や生活の様子をお知らせするものです。お子さんと一緒に通信簿を見て、どんな力が育ってきているか、どんな点を努力したのかなどを確認し、お子さんをほめていただき今後の励みとなるようにしていただきたいと思います。

今年度、お子さんの学校での様子をお伝えする機会は、下記のとおりです。年間を通して様々な機会を利用してお伝えしていく予定です。通信簿でお伝えしきれない部分については、個人面談でお伝えすることにしておりますので、担任と時間を調整し、ぜひおいでください。また、ご家庭での様子などもお聞きしながら、家庭と学校が共にお子さんの成長を支援していきたいと考えます。

### 評価のスケジュール

	月	計 画 と そ の 内 容	
1 学 期	4	授業参観・PTA総会・学級懇談	教育目標・評価方法等の説明
	5	家庭訪問	子どもの願いや保護者の願いの把握
	6		
	7	授業参観・個人面談	学習や生活の様子を説明
	8	(夏休み)	4～7月分の評価のまとめ
2 学 期	9	授業参観・学級懇談 [運動会]	学級の学習状況、生活の様子を説明 通信簿の見方の説明
	10	通信簿 (秋休み)	1学期分の評価のまとめ
	11	[学芸会]	
	12	授業参観・個人面談 [図工展]	学習や生活の様子を説明
	1	(冬休み) [書きぞめ展]	10～12月分の評価のまとめ
	2	授業参観・学級懇談	学級の学習状況、学校評価の説明
	3	通信簿	2学期分の評価のまとめ

### 〈学習の様子〉

- ◆ 学習のめあて（評価の観点）  
学習状況について各教科ごと、観点ごとに具体的な学習のめあてとして表しています。
- ◆ 学習の実現状況  
各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに3段階評価（1学年の1学期のみ2段階）で示しています。  
よくできた・・・「十分満足できる」状況  
できた・・・「おおむね満足できる」状況  
もう少し・・・「努力を要する」状況
- ◆ 所見欄  
学習の実現状況の欄だけでは十分表現しきれなかった内容や、もっと詳しくお伝えしたいことについて、担任が記入しています。頑張った点については大いにほめていただき、また、もう少し努力が必要な点については、根気強く励ましていただきたいと思います。

**小学校** **学習状況のコメントを充実させた通信簿例**

■ **作成のねらい**

◎指導について家庭とより連携を図り、子どもの学習意欲を高めるために！

- ・学習の実現状況や取組の様子など、普段の学習の様子を具体的に記述するとともに、学習目標を実現するための今後の指導内容なども記述できるようにしました。
- ・学習のめあてを分かり易くしました。

◎算数と総合的な学習の時間の評価を分かり易く伝えたい！

- ・算数の評価を単元ごとに4観点で評価し、学習の実現状況や取組の様子などを具体的に記述できるようにしました。
- ・「総合的な学習の時間」のテーマやめあて、具体的な活動の様子を記述できるようにしました。

◎日常の記録を生かし、コメント記述の負担感を軽減したい！

- ・日常の学習における子どもの姿を記録し、累積できるようにしました。

■ **通信簿例(5年生)**

The image shows a sample communication book page for 5th grade. It contains several tables and sections. Callouts highlight specific features:

- ☆工夫点2** (Point 2): Points to the '評価' (Evaluation) column in the '学習の記録' (Learning Record) table, specifically the '観点別・単元別評価' (Evaluation by viewpoint and unit).
- ☆工夫点1** (Point 1): Points to the '学習の様子とアドバイス' (Learning style and advice) column in the '学習の記録' table, specifically the 'コメントの充実' (Enrichment of comments).
- ☆工夫点4** (Point 4): Points to the '学習の様子とアドバイス' column in the '学習の記録' table, specifically the 'PCによる記録も可能' (Recording is also possible using PC).
- ☆工夫点1** (Point 1): Points to the '総合的な学習の時間' (Integrated Learning Time) section, specifically the '総合的な学習の時間の評価' (Evaluation of integrated learning time).

The tables include:

- 学習の記録** (Learning Record): A table with columns for '学習のめあて' (Learning goal), '評価' (Evaluation), and '学習の様子とアドバイス' (Learning style and advice).
- 算数の学習の記録** (Arithmetic Learning Record): A table with columns for '単元名' (Unit name), '評価の観点' (Evaluation viewpoint), and '学習の様子とアドバイス'.
- 総合的な学習の時間** (Integrated Learning Time): A table with columns for 'テーマ' (Theme) and '学習の様子' (Learning style).

**わたしの学習と生活の記録 (5・6年用)**

※記録日は7月・10月・12月・3月の4回です。

学習の様子 (努力したこと、力がついたと思うこと、これから努力したいことなど)

7/19  
私力がついたので思っているのはふつふつ日記を  
いつもつらまて書くことです。先生にもさすがイル  
アップだね、と言われてます。このころ読書をするよう  
になつたなと思ひました。

10/10  
私力がついたので思っていることはこのころ図書  
室の本を借りるようになったことです。今まで  
ここで読んでいただけだったのに借りる  
ようになりまし。これから本を読みたいで。

☆ 工夫点5

「わたしの学習と生活の記録」

工夫点1
コメントの充実

子どもと保護者からの、先生からの具体的なコメントがほしい。こんな声にこたえて、図1・2・3の「学習の様子とアドバイス」欄のように、教科ごとに教師からのコメント記入欄を加えました。コメントは、学習の中で見られたよさや学習の実現状況を中心に、その様子を知らせ、補充的な学習・発展的な学習の内容や学習方法などのアドバイスも記述します。

【1学期 学習の記録】		評価 (十分満足できる状況⇒◎ おおむね満足できる状況⇒○ 努力を要する状況⇒△)	
教科	学習のめあて (評価の観点)	評価	学習の様子とアドバイス ☆がんばったこと ☆もっとがんばってほしいこと
国 語	①国語への関心をもっている	○	宿題や漢字ドリルへの取組は定着していると思われます。漢字は、テスト等でも9割以上は理解できています。今後は、日常的に文章の中で使えるように指導していきます。「海にねむる未来」の学習後、自分自身が21世紀に向けて伝えたいことを分かりやすくまとめました。
	②的確に話したり、相手の意図を考えながら聞いたりする	○	
	③目的や意図に応じ、筋道を立てて文章を書く	◎	
	④目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読む	○	
	⑤音声、文字、語句、文や文章などの国語の基礎を理解している	○	

図1 コメント記入欄

工夫点2
観点別・単元別の評価

保護者からの、学習のめあてや内容を分かり易く示してしてほしい。こんな声にこたえて、積み重ねが大切で、つまずきも発生しやすい算数については、次ページの図2のように単元名と学習内容を示しました。また、その他の教科は、図1のように学習のめあてを観点別に示しました。学校の特色や子どもたちの実態等から、単元名と学習内容で示す教科を増やすことも可能です。

観点別評価の結果は、学期ごとの3段階評価(「十分満足できる」状況⇒◎ 「おおむね満足できる」状況⇒○ 「努力を要する」状況⇒△)とし、得意なことやさらに努力を要する内容等についてははっきりと示すようにしました。

[算 数] 評価の観点(関心・算数への関心・意欲・態度 考え方-数学的な考え方 数量・図形についての表現・処理 数量・図形についての知識・理解)					
単元名 (主な学習の内容)	評価の観点				学習の様子とアドバイス ☆がんばったこと ☆もっとがんばってほしいこと
	関心	考え方	表現	知識	
①数のしくみを調べよう (小数と整数のしくみ)	○	◎	○	◎	小数のしくみが分かり、小数のかけ算やわり算が正しくできます。文章題では、問題の意味を把握して解くことができます。 四角形の性質を理解し、辺や角の特徴をつかむことができました。しかし、平行四辺形の対角線については等しいと誤解しがちでした。ひし形との間違いも見られたため、身近な物などを使って学習しました。定着するまで繰り返し指導したいと思います。
②小数のかけ算とわり算を考えよう (小数×整数, 小数÷整数)	◎	◎	◎	◎	
③だいたいいくらになるのかな (がい数)	○	○	○	○	
④四角形をつくらう (垂直, 平行と四角形)	○	○	○	△	
⑤整数を2つのなかまに分けよう (偶数と奇数)	○	○	○	○	
⑥計算のきまりを見なおそう (かっこを使った式)	○	○	○	○	
⑦小数のかけ算とわり算を考えよう (小数×小数, 小数÷小数)	◎	◎	◎	◎	
⑧面積の求め方を考えよう (平行四辺形と三角形の面積)					
⑨分数をくわしく調べよう (分数と小数)					
⑩三角形の角のひみつをさぐらう (三角形, 多角形)					
⑪くらべ方を考えよう (百分率とグラフ)					
⑫円をくわしく調べよう (円周と円の面積)					

図2 単元別の評価

### 工夫点3

### 総合的な学習の時間の評価

「総合的な学習の時間」の評価をどのように伝えればよいのか。教師のこのような声にこたえて、図3のように、テーマや身に付けさせたい資質と能力(観点別)を示すとともに、どのような活動を通してどんな力が付いたか具体的に記述する欄を設けました。

[総合的な学習の時間] 身に付けさせたい資質と能力(身に付いてきた力・よく努力した項目⇒○)		
テーマ	身に付けさせたい資質と能力	学習の様子とアドバイス
(例) 地球市民へのパスポート	(例) 1 課題を見付ける力 2 情報を集める力 3 情報をまとめる力 4 分析・考察する力 5 コミュニケーション能力	優れた感受性で英語表現を吸収し、理解していることに驚かされます。応用することも容易で、コミュニケーションを楽しむことができます。 活動内容を、豊富な写真と共に紹介してくれました。ゲームやあいさつ、食べ物、楽器などを通して、いろいろな生活や文化を知ることができたようです。資料を基に自分の考えをまとめ、人と人とのコミュニケーションの大切さについて発表することもできました。

図3 「総合的な学習の時間」の評価欄

### 工夫点4

### PCによる記録も可能

通信簿作成のための作業量をどのようにして軽減するか。教師のこのような声にこたえて、通信簿の書式をPC(パーソナルコンピュータ)に入力し、PCによる記入を可能にしました。

評価を行う際は、十分な資料の収集と観察、そして日常の具体場面における記録の累積が必要不可欠です。学期末になって、子ども一人一人についてまとめて具体場面を思い出すことは困難なことであり、学期の期間が長くなった2学期制においては、日常の記録の累積はますます重要になっています。

PCを活用すると、コメント欄の増減などは自由に変更できます。また、学期末にコメントを整理する際も容易ですし、直筆にこだわりたいという方は別ですが、PCからのプリントアウトも可能です。

### 工夫点5

### 自己評価カード

「できるようになったこと」「得意なこと」「努力の様子」などを認めてほしい。子どものそんな声にこたえて、子どもの学習意欲や活動意欲を認めるとともに、自己認識力を高めるために、自己評価カードを通信簿に加えました。

## ■保護者に対する説明文の内容例(5年生)

### ◆通信簿の見方について

通信簿は、お子さんの学習や生活の様子をお知らせするものです。お子さんと一緒に通信簿を見て、どんな力が育ってきているのか、これから努力したいこと、などを話し合いながら、次の意欲につながるように役立てていただきたいと思います。

### 《今年の評価スケジュールは》

今年度、お子さんの様子をお伝えする機会は、表1のようになります。通信簿に限らず、年間を通して様々な機会を通してお伝えしていく予定です。また、ご家庭での様子などもお聞きしながら、家庭と学校が一緒にお子さんの成長を支援し、見つめていきたいと考えます。

表1 評価のスケジュール

	月	計 画 と そ の 内 容	
1 学 期	4	授業参観・学校懇談・学級懇談	教育目標・評価方法・評価スケジュール等の説明
	5	家庭訪問	子どもの願い・保護者の願い把握
	6		
	7	個別懇談①	個別に学習や生活の様子について相談
	8	(夏休み)	4～7月分の評価のまとめ
	9		
2 学 期	10	授業参観・学級懇談 通信簿① (秋休み)	学級の学習状況・通信簿等の説明 1学期分の評価のまとめ
	11		
	12	個別懇談② (冬休み)	個別に学習や生活の様子について相談 10～12月分の評価のまとめ
	1	学力診断テスト	
	2	授業参観・学校懇談・学級懇談	学級の学習状況及び学力診断テスト等の結果説明
	3	通信簿②	2学期分の評価のまとめ

### 《新しい通信簿の特徴》

特徴① 目標に準拠した評価と個人内評価を重視

評価は、学習の実現状況を教科ごとにみる「目標に準拠した評価」です。目標は、観点別に設定され、単元ごとに評価の規準を設定して評価しています。各教科の大まかな評価の観点及びその趣旨は別添の資料のようになります。

総合的な学習の時間は、各学年テーマを基に、身に付けさせたい資質や能力を決めて観点を設定し、一人一人の活動のよさや成長の様子を評価する「個人内評価」で評価します。

#### 特徴② 学習状況のコメント充実

教科ごとに教師からのコメント記入欄を加えた様式にしました。コメントは、学習の中で見られたよさや学習の実現状況を中心に、その様子を知らせ、補充的な学習・発展的な学習の内容や学習方法などのアドバイスも記述します。

#### 特徴③ 算数は単元ごとに評価

積み重ねが大切でつまずきも発生しやすい算数については、単元名と学習内容を示しました。また、その他の教科については、学習のめあてを観点別に示しました。

#### 特徴④ 観点別の3段階評価

観点別評価の結果は、学期ごとの3段階評価（「十分満足できる」状況⇒◎ 「おおむね満足できる」状況⇒○ 「努力を要する」状況⇒△）とし、得意なことやさらに努力を要する内容等についてははっきりと示すようにしました。

#### 特徴⑤ 自己評価カード（わたしの学習と生活の記録）

お子さんの学習意欲や活動意欲を認めるとともに、できるようになったことやもっと努力しなければならないことなどを自分で認識し、更に努力しようとする力を高めるために、自己評価カードを通信簿に加えました。

自己評価カードは、7、10、12、3月にお子さんが自分で記入します。通信簿に挟み込んでお渡しますが、7月と12月の個別懇談会の際も資料として使用します。

## 《新しい通信簿の見方》

### 学習の記録欄

#### ◆ 学習のめあて（評価の観点）

学習の実現状況について、評価の観点を表しています。各観点の趣旨は、別添の「評価の観点及びその趣旨」をご覧ください。

#### ◆ 観点別評価

各観点の学習の実現状況を3段階評価（「十分満足できる」状況⇒◎ 「おおむね満足できる」状況⇒○ 「努力を要する」状況⇒△）で示しています。



◆ 学習の様子とアドバイス

学習の中で見られたよさやもう少し努力を要する点を中心に、その様子を記述してお知らせします。また、補充的な学習や発展的な学習の内容、学習方法のアドバイスなども記述する予定です。

※「総合的な学習の時間」は、身に付けさせたい資質や能力について、その学習の様子を記述してお知らせします。

生活の様子欄

◆ 生活の具体目標

学校生活全体の中で身に付けることが望ましい基本的な生活習慣・心情・態度などのめあてを表しています。

生活の具体目標について、「よくできた」「できた」「もう少し」でその様子を表しています。

所見欄

学習や生活、特別活動の中で見られたよさ、向上・努力の様子及び顕著な活動についてお知らせします。

※修了証書は、別に作成し、学年末にお渡しします。

※ご不明な点などございましたら、担任または教務主任までご相談ください。

中学校

教科連絡票を活用した通信簿例

■作成のねらい

◎生徒の学習の様子が分かるように

・学習の結果だけではなく、取組の様子やできるようになったこと、弱点へのアドバイスを分かり易く記述します。また、教科連絡票を作成して学期途中での評価も行い、学習の過程をきめ細かく、保護者・生徒に伝えます。

◎安心感・信頼感を持たせるために

・「評価の規準や方法を示してほしい」という声にこたえて、保護者への説明資料を作成し、評価の規準や方法を具体的に示します。また、評価に関するスケジュール表を示して、評価の時期を伝えます。

◎通信簿作成の負担を軽く

・これまでの通信簿作成は、学期末に集中しがちで、特に学級担任に大きな負担がかかっていました。教科連絡票と通信簿を有機的に関連させることによって、通信簿の記載内容を軽減します。また、文章で記述するところも各教科担当者等がPCで作成し、貼り付けることができるように工夫します。

■学期末の通信簿例

☆工夫点1

【評価の観点を簡略に】  
(具体的な内容は保護者への説明文で)

☆工夫点5

【総合的な学習の時間の評価を分かり易く】  
(PCで作成・貼り付け)

一学期 各教科の学習の記録				
教科	評価の観点	状況	評価	学習の様子・アドバイス
国語	読解への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 学習についての知識・理解・自覚			
社会	社会的関心・意欲・態度 社会科の思考・判断 学習の計画・進捗 学習態度についての知識・理解			
数学	数学への関心・意欲・態度 数学的思考力や考え方の 形成・発展についての知識・理解			
理科	科学的思考 探究・実験の技能・態度 自然現象についての知識・理解			
音楽	音楽への関心・意欲・態度 音楽的表現や表現の工夫 鑑賞の能力			
美術	美術への関心・意欲・態度 表現や鑑賞の能力 創造力・想像力 鑑賞の能力			
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能・態度 生活習慣についての知識・理解			
技術・家庭	生活や学習への関心・意欲・態度 生活や学習に活用する能力 生活や学習についての知識・理解			
外国語	外国語学習への関心・意欲・態度 外国語の技能・態度 異文化理解についての知識・理解			
道徳A	コース( )			
道徳B	コース( )			
道徳C	コース( )			
道徳D	コース( )			

総合的な学習の時間		
学習活動	観点	学習の様子

☆工夫点2

【評価・評定を分かり易く】  
(評価方法を保護者への説明文で)

☆工夫点3

【5教科のコメントは省略】  
(5教科は教科連絡票に記述)

☆工夫点4

【実技教科は学習の様子を記述】  
(PCで作成・貼り付け)

**工夫点 1・2 評価・評定を分かり易く**

評価の観点は、通信簿には簡略化して示し、保護者への説明資料にはできるだけ具体的な内容を示します。評価の観点を分かり易く示すことによって、生徒が「できたこと」「できなかったこと」を具体的にとらえられるように工夫します。また、日常の学習の評価と定期考査との関連については、学習のはじめに説明するとともに、保護者への説明資料に具体的に示します。

**工夫点 3・4 教科担任からのアドバイス**

生徒や保護者の「教科担当者のコメントが欲しい」「学習の仕方についてアドバイスが欲しい」という声にこたえました。国語、社会、数学、理科、英語の5教科については、教科連絡票に単元ごとの学習状況について記述しているので、通信簿には記述しません。音楽、美術、保健体育、技術・家庭の4教科について、生徒の学習の様子やアドバイスなどを簡潔に記述できるようにします。その際、各教科担任や学級担任の負担を軽くするために、PCで作成して貼り付けられるように工夫します。

一学期 各教科の学習の記録				
教科	評価の観点	状況	評定	学習の様子・アドバイス <small>(国語・社会・数学・理科・英語については、教科連絡票をご覧下さい)</small>
社会	言語についての知識・理解・技能	A	2	
	社会的事象への関心・意欲・態度	B		
	社会的な思考・判断	C		
	資料活用の技能・表現	B		
	社会的事象についての知識・理解	B		
音楽	音楽への関心・意欲・態度	A	4	「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想を感じ取り、息つきや発音・発声に気をつけて、旋律の流れを大切にされた表現ができました。
	音楽的な感受や表現の工夫	B		
	表現の技能	A		
	鑑賞の能力	B		
	美術への関心・意欲・態度	B		

**工夫点 5 総合的な学習の時間の評価**

「総合的な学習の時間」の学習活動の目標や内容に基づいて定めた評価の観点に従って、生徒の学習状況やどのような力を身に付けたかなどを具体的に記述します。

総合的な学習の時間		
学習活動	観 点	学習の様子
「環境問題～わたしたちができること～」	課題設定の能力 問題解決の能力 学び方・ものの考え方 学習への主体的・創造的な態度 自己の生き方	日ごろの生活の中で気づいたことを基にして、「環境問題～わたしたちができること～」というテーマを設定することができました。図書館で必要な文献を集めたり、インターネットを利用して必要な情報を収集、活用したりすることができました。

## ■教科連絡票の例（1年生 数学）

### ◎配布の時期と方法

- ・一つの単元が終了するごとに、観点別評価の結果を記入し、授業時間に教科担任から生徒へ配布します。配布した際に、生徒にコメントを記述させ、その時間内に回収します。
- ・回収後、教科担任はアドバイスを記述し生徒を通して保護者へ配布します。
- ・配布された教科連絡票は学級担任が集め、保護者印を確認し、教科担任へ返却します。
- ・教科連絡票は教科担任が次回の配布日、学期末、学年末まで保管します。
- ・学期末と学年末には、学級担任が教科担任から教科連絡票を受け取り、ファイルなどを利用して通信簿とともに生徒に配布するようにします。

### ◎作成のポイント

教科連絡票作成のポイントは次のとおりです。

- ・ポイント1 小単元の観点別評価結果を提示する。
- ・ポイント2 単元の観点別評価結果を提示する。
- ・ポイント3 生徒が学習を振り返り、コメントを記述する欄を設定する。
- ・ポイント4 教科担任が生徒に対して助言を記述する欄を設定する。

No. 組 名前 _____				
単元名 _____				
小単元	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	☆ポイント1 【小単元の観点別評価結果の提示】			
単元の総合評価	☆ポイント2 【単元の観点別評価結果の提示】			
生徒のコメント		教科担任のアドバイス		
☆ポイント3 【生徒が学習を振り返り コメントを記述する欄】		☆ポイント4 【教科担任が生徒に 助言を記述する欄】		
月 日 ( )		教科担任	印	保護者

## ◎作成のポイントのねらい

### ★ポイント1 小単元の観点別評価結果の提示

小單元ごとに観点別評価結果を提示することにより、生徒の学習の実現状況について「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)がはっきり分かるようにしました。

### ★ポイント2 単元の観点別評価結果の提示

単元の観点別評価結果を提示することにより、生徒の学習の実現状況を年間を通じて見たときに「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)がはっきり分かるようにしました。

小單元	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
正負の数	A	B	A	A
加法と減法	A	B	B	B
乗法と除法	A	B	B	B
単元の総合評価	A	B	B	B

### ★ポイント3 生徒のコメント欄の設定

教科担任から生徒に小単元の評価結果と単元の観点別評価結果を提示します。提示された評価結果を手掛かりにしながら、生徒に自分の学習状況を振り返らせ、コメント欄に不十分な点について記述させるようにします。これにより、生徒に何が分かって何が分かっていないかを気付かせたいと考えました。

### ★ポイント4 教科担任のアドバイス欄の設定

生徒の学習の実現状況で「努力を要する」状況や、生徒が学習状況を振り返り、不十分だと気付いた点について、改善のための具体的な助言をアドバイス欄に記述し、つまずきをできるだけ早く解消したいと考えました。

生徒のコメント	教科担任のアドバイス	
「数学のガイド」でやらないところがあったので、これからは全部やるようにしたい。 $(-5) + (-7)$ は分かるが、 $-5 - 7$ がよく分からない。	これからは課題を忘れずにやってくる努力をしましょう。加法と減法について一緒に復習をしますから、「数学のガイド」の18ページの問題にもう一度取り組み、ノートを提出してください。	
月 日 ( )	教科担任 印	保護者 印

## ■保護者に対する説明文の内容例

### ◆通信簿の見方について

通信簿は、学校でのお子さんの学習や生活の様子をお知らせして、各人の個性や能力を伸ばし、一人一人が健康で豊かな人間として成長していくことを願い作成しています。ご家庭でも、この通信簿の記録を通して、お子さんをよく理解し、一層の向上を図る手掛かりとして、ご活用ください。

また、この通信簿は、学期のまとめの評価です。これまで配布した5教科（国語・社会・数学・理科・英語）の教科連絡票、総合的な学習の時間の記録ファイル等も見ただけだと、お子さんの学習の様子がより詳しく分かります。

### ◀ 評価に関連するスケジュール表 ▶

学期	月	おもな行事	保護者への説明	内 容	
一 学 期	4月	始業式 入学式	PTA総会	教育方針・目標・教育課程等の説明	
	5月		学年PTA総会・学級懇談会		
	6月	一学期中間考査	評価のスケジュール表配布		
	7月	夏季休業	授業参観 学年保護者会 考査成績票の配布		各 教 科 こ と に 教 科 連 絡 票 の 配 布
	8月	一学期期末考査	家庭訪問（三者面談）		
	9月		授業参観・学年保護者会 考査成績票の配布		
10月	終業式 秋季休業 始業式	通信簿の説明文の配布 通信簿の配布			
二 学 期	11月	学習発表会	授業参観	総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 発 表	
	12月	二学期中間考査	教育相談（三者面談）		
	1月	冬季休業			
	2月	学年末考査	学年PTA総会・学級懇談会 考査成績票の配布		
	3月	卒業式 修了式	通信簿の配布		
					生徒の学習と生活の様子 考査結果とまとめ
			生徒の学習と生活の様子 考査結果とまとめ	二学期の総括的評価	

### ◀ 学習の記録の見方 ▶

#### ○学習の実現状況

##### 観点別学習状況

各教科では、授業の様子・レポート・課題・提出物・作品・実技・定期考査・小テストなどによって、それぞれの観点の目標に到達しているかどうかを評価し、以下のように3段階で示しています。

A:「十分満足できる」状況 B:「おおむね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況

##### 必修教科の評定

各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、以下のように5段階で示しています。

5:「十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの」

4:「十分満足できると判断されるもの」

3:「おおむね満足できると判断されるもの」

2:「努力を要すると判断されるもの」

1:「一層努力を要すると判断されるもの」

○評価の観点

各教科では、それぞれ評価の観点を設定して、授業を行い、評価をしています。各評価観点の具体的な内容は「各教科の評価の主な観点」に示しています。通信簿の各観点の評価と「各教科の評価の主な観点」を照らし合わせて見ることによって、「どのような点が良くてきているか」「どこでつまづいているか」等が具体的に分かります。

【 1年社会科「評価の主な観点」の例 】

社会的事象への関心・意欲・態度

- 1 地球表面の様子や現代の世界を構成する州や大陸、国々に対する関心が高まっている。
- 2 身近な地域の諸事象の観察や調査などの活動に意欲的に取り組んでいる。
- 3 我が国の歴史の流れに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。

社会的な思考・判断

- 1 日本の国土の領域の特色と変化を基に世界的視野から日本の地域構成を考察している。
- 2 身近な地域の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとの関わりに着目して多面的・多角的に考察している。
- 3 人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化を多面的・多角的に考察している。

資料活用の技能・表現

- 1 地球儀や世界地図の長所・短所に留意して読み取りを行っている。
- 2 大陸の大まかな形状と位置関係、主な国々の名称と位置が分かる程度の世界の略地図を描いている。
- 3 国家が形成されている過程のあらましに関する考古学の成果や文献などのさまざまな資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。

社会的事象についての知識・理解

- 1 緯度と経度、時差を理解し、その知識を身に付けている。
- 2 都道府県の位置と名称、日本の地域区分を理解し、その知識を身に付けている。
- 3 人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化を、我が国の歴史と関わる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。

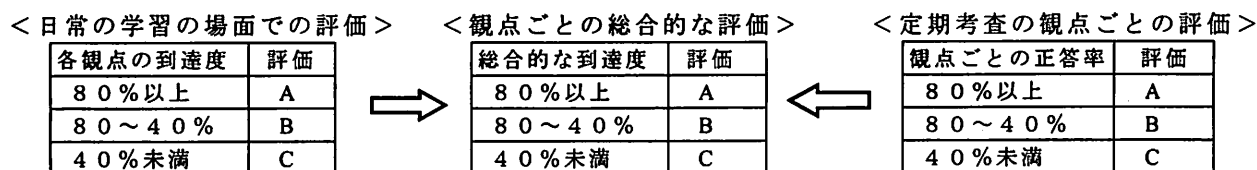
○学習の様子・アドバイス

音楽、美術、保健体育、技術・家庭の各教科担当から、日ごろの学習の様子、よくできている点や努力してほしいことを記述しています。これを参考にして、これからの学習に生かしてほしいと思います。国語、社会、数学、理科、英語については、教科連絡票に単元ごとに詳しく記述しています。より詳しくお知りになりたい方は、面談にも応じます。

≪ 評価方法の説明の例 ≫

○評価の方法について

各教科の評価は、それぞれの観点にもとづいて、日常の学習の状況や定期考査の結果などを踏まえて行われます。



< 観点別評価と評定との関連 >

各教科の観点別評価結果の A を 1 点、B を 0 点、C を -1 点と換算して合計した評定値を算出し、評定しています。

- 評価値 3 または 4 → 評定「5」
- 評価値 2 または 1 → 評定「4」
- 評価値 0 → 評定「3」
- 評価値 -1 または -2 → 評定「2」
- 評価値 -3 または -4 → 評定「1」

たとえば、音楽科の観点別評価が A・B・A・B の時、評定値は 2 (1 + 0 + 1 + 0) なので評定は「4」となります。

◆教科連絡票の見方について

通信簿に教科ごとの助言や日ごろの具体的な学習状況の記述が欲しい。保護者の皆様のごこうした声にこたえるために、国語・社会・数学・理科・英語の教科連絡票を作成しました。お子さんの学習の実現状況について、小単元と単元の観点ごとに「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）が分かります。また、お子さんのコメント欄や教科担任のアドバイス欄を設け、充実している点や改善すべき点、具体的な改善の方法も分かるようにしました。

教科連絡票を通して、お子さんとともに学習状況をご確認の上、ご家庭での教育の指針としてご活用くださいますようお願いいたします。

◀配布の時期と方法▶

- 一つの単元が終了することに、教科担任がお子さんを通して配布します。
- 教科連絡票でお子さんの学習状況をご確認、押印後、学級担任へご提出ください。
- 1学期末には、通信簿とともに国語・社会・数学・理科・英語の教科連絡票をお子さんを通して配布いたします。なお、2学期初めに、通信簿と5教科の教科連絡票を学級担任へご提出ください。
- 学年末にも、通信簿とともに国語・社会・数学・理科・英語の教科連絡票をお子さんを通して配布いたしますので、通信簿とともにご家庭で保管願います。

◀教科連絡票の様式▶

No. 組 名前 _____				
単元名 _____				
小単元	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
☆小単元の観点別評価結果を提示しています。				
単元の総合評価				
☆単元の観点別評価結果を提示しています。				
生徒のコメント		教科担任のアドバイス		
☆生徒が学習を振り返りコメントを記述します。		☆教科担任から生徒へ学習に関する助言を記述します。		
月 日 ( )		教科担任 印	保護者 印	



### 《作成の具体的なねらい》

#### ○小単元の観点別評価結果の提示について

小單元ごとに観点別評価結果を提示することにより、お子さんの学習の実現状況について「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）がはっきり分かるようにしました。

#### ○単元の観点別評価結果の提示について

単元の観点別評価結果を提示することにより、お子さんの学習の実現状況を年間を通じてみたときに「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）がはっきり分かるようにしました。

（数学 1年生の例）

小單元	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
正負の数	A	B	A	A
加法と減法	A	B	B	B
乗法と除法	A	B	B	B
単元の総合評価	A	B	B	B

#### ○生徒のコメント欄の設定について

教科担任からお子さんに小単元の評価結果と単元の観点別評価結果を提示します。提示された評価結果を手掛かりにしながら、お子さんに自分の学習状況を振り返らせ、コメント欄に不十分な点について記述させるようにします。これにより、お子さんに何が分かって何が分かっていないかを気付かせたいと考えました。

#### ○教科担任のアドバイス欄の設定について

お子さんの学習の実現状況で「努力を要する」状況や、お子さんが学習状況を振り返り、不十分だと気付いた点について、改善のための具体的な助言をアドバイス欄に記述し、つまずきをできるだけ早く解消したいと考えました。

（数学 1年生の例）

生徒のコメント	教科担任のアドバイス	
「数学のガイド」でやらないところがあったので、これからは全部やるようにしたい。 $(-5) + (-7)$ は分かるが、 $-5 - 7$ がよく分からない。	これからは課題を忘れずにやってくる努力をしましょう。加法と減法について一緒に復習をしますから、「数学のガイド」の18ページの問題にもう一度取り組み、ノートを提出してください。	
月 日 ( )	教科担任 印	保護者 印

# 仙台市小・中学校10年経過教員への意識調査

## ■要 約

この研究は、仙台市小・中学校10年経過教員への意識調査をもとに、課題および可能性を探り、提言を行い、学校教育の推進者としての意識を高めようとするものである。

そのために、本市10年経過教員の置かれている立場、保護者からの期待や要望など、本市の教育改革の指針となる生きた資料を得ることを目的とし、それらについての課題の要因の理解や改善策を提起する中で教育現場に提言としてまとめた。

## ■キーワード

- 10年経過教員
- 中堅教員への道
- 意識調査
- 教員の成長
- 自信と満足
- 保護者からの期待

# 目 次

I	はじめに	5 3
II	研究の目的	5 3
III	調査の概要	5 3
IV	調査結果の分析と考察	
	■ 教職経験10年経過者へのアンケート	
	1 あなたのこれまでの歩みを振り返って	5 3
	2 あなたの現在のことについて	5 6
	3 あなたのこれからのことについて	6 2
V	研究のまとめ	6 5
VI	本研究を踏まえた提言	6 6
VII	おわりに	6 6
◆	座談会「10年経過教員意識調査から見てきたもの」	6 7
	参考文献 委嘱研究員	7 1
	調査用紙	7 2

## I はじめに

教育改革の中にあつて、教育現場に求められるものはますます重要かつ多様なものとなつてきている。そのことは、教員に求められるものと重なる部分が多い。まさに教員の資質能力の向上が課題となっている。その中であつて中堅教員は、学校組織において、主任等学校運営上重要な役割を担い、若手教員への助言・援助など機能的組織の維持・形成に重要な位置を有することから、ますます期待がかけられている。一方、今日における教師の年齢構成をみると、平均年齢は高齢化が進行しており、今後数年は同じ傾向が続くことが予想される。さらに、中堅教員の研修の必要性も、喫緊の課題として論じられている。

このような中で、中堅教員について幅広い立場から意見を出し合い、研究を重ね、これらをもと中堅教員に対しての意識調査を行い、職務に対する意識や置かれている立場および社会的背景等を探り、中堅教員層および学校改革の活性化の手がかりとなる資料を作成することは意義深いことと考える。

そこで、本研究では教職経験10年経過の教員を対象に、意識の変化等を探り、意欲的な中堅教員層の育成、さらには学校の活性化はどうあればよいのかという視点での研究をしたいと考え、本主題を設定した。なお、今回の研究にあたって保護者から求められる教師像についての意識調査も行った。

## II 研究の目的

10年経過教員のおかれている立場やその意識等を探り、中堅教員のための研修の在り方を考え、課題をとらえるための基礎資料とすることを目的とする。

## III 調査の概要

### 1 調査時期及び調査対象

#### (1) 調査目的

教職経験10年経過者の立場やその意識を探る。

#### (2) 調査期間

平成14年9月3日～9月17日

#### (3) 調査対象

① 教 諭：仙台市小・中学校教職経験10年経過者研修平成14年度受講者全員

② 保護者：仙台市小・中学校児童生徒の無作為抽出保護者

### 2 調査の内容と方法

#### (1) 調査方法

① 教 諭：郵送による質問紙の送付および郵送による無記名回収

② 保護者：各対象校において質問紙の配布および郵送による無記名回収

#### (2) 調査の内容

① 教 諭：10年経験者のこれまで・いま・これからの意識

② 保護者：求められる教師像を探る保護者の意識

### 3 調査対象者および回収数

① 10年経過研修対象者150名中  
回収数120名 回収率 80%  
(小学校男子30名 女子29名、  
中学校男子30名 女子31名)

② 保護者120名中  
回収数100名 回収率 約83%

## IV 調査結果の分析と考察

### ■ 教員へのアンケート

#### 1 あなたのこれまでの歩みを振り返って

##### (1) あなたの取り組んできたもの

あなたがこれまで力を入れて取り組んできたものは何か

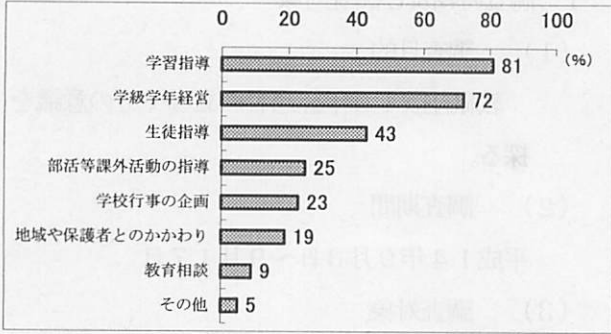


図1 10年経過教員がこれまで取り組んできたもの (複数回答) n=120

教師という職業についてからの10年間、どんな分野に力を入れてきたかをたずねた。複数回答(3つ選ぶ)の中で「学習指導」という回答が81%と最も多く、「学級学年経営」が72%、「生徒指導」が43%と続く。校種別では、小学校の70%、中学校の80%が「学習指導」を挙げている。

一方、「学級学年経営」については、小学校の89%、中学校の55%にあたり、校種による差が大きい。これは、小学校は、担任が教科の授業や児童の活動などすべてにわたって自分の学級にかかわっていることから、おのずと力を入れて取り組む必要性が高いからであろう。他方、中学校では、「生徒指導」に力を入れてきたという回答が52%と、小学校の35%を上回っている。これは、やはり中学校のほうが生徒指導上の課題や問題が多いので、問題解決に向けての必要性が高いということであろう。

(2) 自己研修

あなたの自己研修はどのような方法で行ってきたか

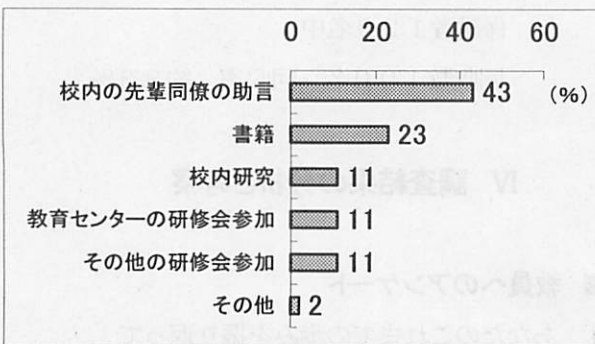


図2 自己研修の方法 (複数回答) n=120

全体では「校内の先輩同僚の助言」が43%、「書籍」が23%、次いで「校内研究」「研修会参

加」と続く。「校内の先輩同僚の助言」が最も高い値を示したことから、一番身近にいる先輩や同僚教師に相談してきたという姿勢がうかがえる。そして「書籍」が二番目に多いことから、数多く出版されている書籍を読んで、自己研修に励む教師の姿が見えてくる。

一方、「校内研究」が11%と少ない。現職教育の一環としてもおこなわれている校内の研究は自己研修の機会ととられている教師が多くないということであろうか。また、「その他の研修会への参加」という回答もあまり多くはない。

コラム 21世紀に突入し多種多様な子どもたちが増えてきた教育現場で一口では言えない教師の指導力が必要とされ年々厳しさを増していくように思われます。このような選択肢では表現しきれないような実態があるということをご承知おきいただき役立ていただければと存じます。(小学校・男)

(3) 理想

あなたは教職につく前に理想とする教師像があったか

「あった」という回答が60%、「なかった」という回答が40%であった。校種による差は、あまり見られなかった。教職につく前に「自分はこのような教師になりたい」という核となる目標(理想)をもったうえで、先輩教師や同僚教師とかかわりながら、同時に書籍や研修会等で研修を積みながら経験を重ねていくことが一般的とされており、半数以上であることが分かった。

理想とする教師像をもたないで教師になった人が40%おり、理想の教師像をもたずに白紙の状態、さまざまな経験を積んでいろいろなことを吸収し、自分なりの教師像をつくりあげてきた教師が、少なくないことが分かる。理想とする教師像をもたずに教師になった人たちは、その後の理想の教師像を描くうえで、赴任した学校でかかわった管理職や同僚教師の中に、理想とする教師像を探してきたと

いうことも考えられる。また、Iの質問2「これまで自己研修は主にどのような方法で行ってきたか」の回答で一番多かった「管理職や同僚教師とのかかわり」との関連で考えてみても、赴任先での他の教師とのかかわりがその後の教師生活においても重要な意味をもってくるといえる。

「理想とする教師像があった」と答えた教師に、「どのような教師像だったか」を自由に記述してもらったところ次の記述があった。

「児童生徒とともに行動できる」、「子どもの立場に立てる」、「子どもに信頼される」、「児童生徒の気持ちができる」、「子どもに尊敬される」とあり、児童生徒の心情を理解し、児童生徒の視点に立って児童生徒とともに歩む教師を理想としていた教師が多いことが分かる。このことから、「教職につく前に、理想とする教師像があった」と答えている教師は、「児童生徒の理解にかかわること」を第一に考えて教職についたことがうかがえる。その他「何事にも熱心に取り組む」、「明るく楽しい」、「バイタリティーがある」、「教師に誇りをもつ」、「尊敬される」、「部活動に熱心である」と、教師としての姿勢や人柄を挙げている。また、「小学校や中学校の時の担任」といった具体的な恩師を挙げている人が5人おり、クラス担任が与える影響も感じられる。

(4) 変化の契機

教師としての自分の在り方に影響を与えたと思うことはなんですか

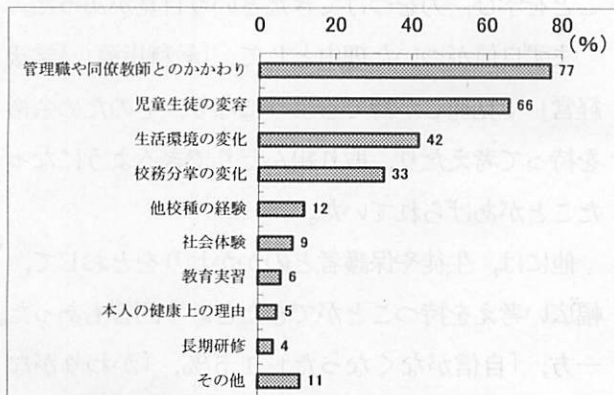


図3 影響を与えたと思うこと (複数回答) n=120

「管理職や同僚教師とのかかわり」が77%と最

も多く、「児童生徒の変容」66%、「生活環境の変化」42%、「校務分掌の変化」33%と続く。校種の差はあまり見られない。Iの質問2「自己研修を行ってきた対象」の「校内の先輩や同僚の助言」が最も多いということにも通じる。同僚の教師や先輩教師は、後輩の教師に与える影響の大きさを改めて自覚しなければならないともいえよう。

二番目に高い数値を示したのは「児童生徒の変容」である。毎日、直接指導し、身近に接する児童生徒とのかかわりの中で、彼らの変容に出会うことによって、教師としての在り方について深く考えさせられ、教師も変化していくものと考えられる。

一方、「生活環境の変化」を挙げた人のうち、小学校の69%、中学校の57%が女性である。これは、女性の教師にとって、結婚や出産などに伴う生活環境の変化が、教師としての在り方にも影響を与えていることが考えられる。

また、「校務分掌の変化」については、校務分掌で責任のある仕事や学校全体にかかわる仕事を任せられることによって、意識が変化していくことがうかがえる。その他、「他校種の経験」や「社会体験」なども自分の在り方に影響を与えたものとして挙げられる。

(5) 仕事

これまでにどのような校務分掌を担当してきたか

最近5年間の主な校務分掌を三つあげてもらった。それを「教務部」「学習指導・研究部」「生徒指導部」「特別活動部」「保健安全指導部」「管理事務部」という六つに分類してみた。

表1 最近5年担当した主な校務分掌 (複数回答)

「教務部」関係	19
「学習指導・研究部」関係	125
「生徒指導部」関係	29
「特別活動部」関係	50
「保健安全指導部」関係	21
「管理事務部」関係	10

これらは校種や学校規模、職員構成などさまざまな環境や条件によって違いがあると思われる。

「学習指導・研究部」関係の校務分掌を担当して

きた教員が最も多い。なかでも、教科主任等の教科にかかわる仕事を担当してきた教員が多いことが分かる。次いで、児童会や生徒会などの「特別活動部」関係の校務分掌と続く。これは、Iの質問1「これまで力を入れて取り組んできたもの」の中で回答の多かった「学習指導」や「学級学年経営」「生徒指導」と一致すると同時に、IIの質問1「10年を経過して、新任当時と比べどんな力がついたか」の中で回答の多かった「学習指導」「学級学年経営」「生徒指導」とも一致している。それぞれの教員が、任された校務分掌の中で、自分なりに努力を続けてきたことから、現在振り返ってみて自分なりに力がついてきたと実感し、自信を深めている姿が読みとれる。

その次に多いのが「生徒指導部」関係だが、10年経過教員が生徒指導の校務分掌を担当する中で、さらに力をつけていくことが期待されるのではないだろうか。

#### コラム

経験年数を経る毎に少しずつ違った自己課題に取り組んでいます。(小学校・男)

## 2 あなたの現在のことについて

### (1) どんな力がついたと思うか

新任当時と比べどんな力がついたか

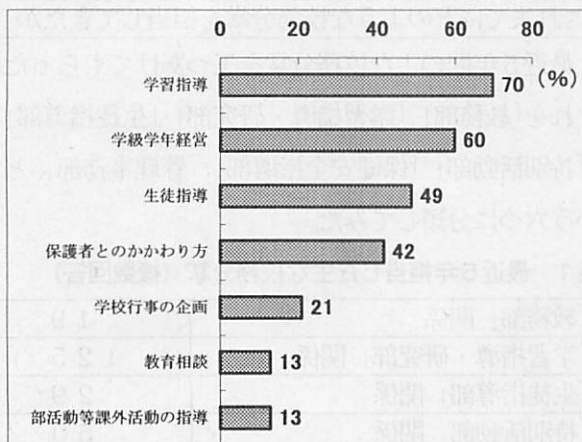


図4 初任時と比べ、どんな力がついたと思うか (複数回答) n=120

「学習指導」, 「学年経営」 「生徒指導」の力がついたと考えている教員が多い。その次に, 「保護者とのかかわり」があげられる。10年の経験の中で,

多くの保護者と接することで親の立場を理解できるようになったり, 自分が実際に親となり, 親の求めていることが理解できるようになったりすることもその理由として挙げられる。上位4項目については小・中ともに同様の傾向がみられた。

このことは, 教職経験を積むことにより, 教師としての着実な指導力が個々に形成されて備わりつつあり, そのことへの自覚が数字となって表れてきていると思われる。また, 「学校行事の企画」が5番目にきているのは, 教職経験10年を経過して文字通り学校運営の中核を担って学校運営全体を視野に入れた総合的な教育活動を推進するマネジメント能力等の資質能力が求められており, それを具現化していることが分かる。「教育相談」「部活動等課外活動」についても今日的課題を踏まえつつ, 関係機関や組織との連携・折衝を適切に行うことで教師としての自信を身に付けつつあることがうかがえる。

### (2) 教員としての自信

新任当時と比べ自信ができたか

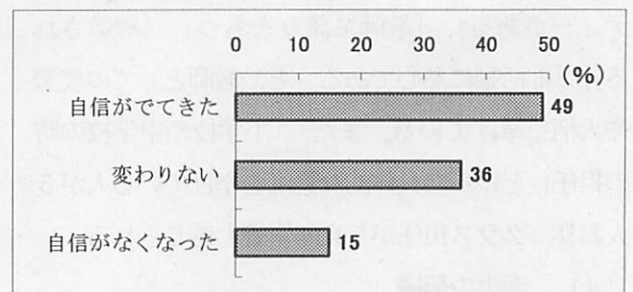


図5 新任時と比べ自信がついたか n=120

(1)の質問で, 多くの項目で新任時より様々なことを学び, 力をつけてきたという自覚があった。

まず自信がついた理由として, 「教科指導」「学級経営」で見通しが持てるようになり, そのため余裕を持って考えたり, 取り組んだりできるようになったことがあげられていた。

他には, 生徒や保護者とのかかわりをとおして, 幅広い考えを持つことができたという回答もあった。一方, 「自信がなくなった」15%, 「かわりがない」36%という回答に着目し, その結果がどんな理由によるものなのか, 質問3のどんな点からそういえるのかへの記述内容を見てみた。

教員としての自信がプラス方向へ変わらない理由としては、10年の経過の中で分かってきた教員の仕事の責任の重さ、求められている課題の大きさに対し、まだまだ自分が到達していないことに気づいたため、これから果たして十分な力が身につけられるかという記述が見られた。また、世の中の変化に伴い今までの自分が積み上げてきた経験だけでは解決できないことがあるということも意味していると思われる。

(3) 目標

目標とするのはどんな教員か

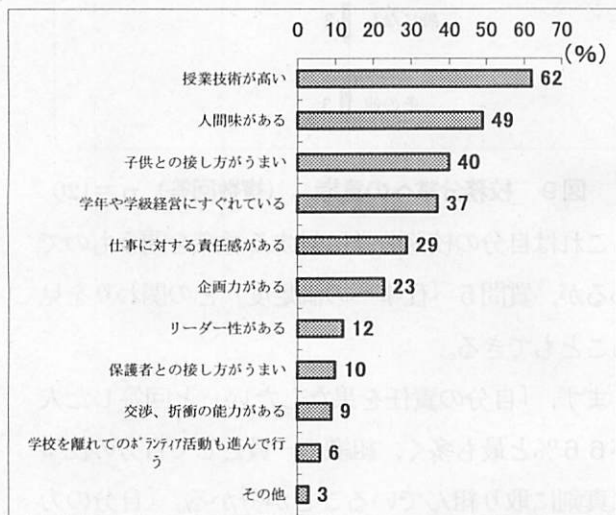


図6 目標とする教師像 (複数回答) n=120

小中ともに「授業技術が高い」が最も多かった。「授業技術」をもっと高めようとする姿勢は、新任時と変わらない。授業を大切にするという意識が高いのは、教員として最も必要な資質や能力が授業技術だと考えているからであろう。そしてさらに、「人間味がある」「子供との接し方がうまい」という項目を選んでいることから、教師の人間性にも目を向けていることが分かる。回答者自身人間的成長を望んでいることがうかがえる。

10年を経過して、今後は様々な場面でリーダーシップを発揮し、学校の中心となって活躍していくとする意識が育ちつつある。

(4) 仕事への満足

教員として自分の仕事に満足しているか

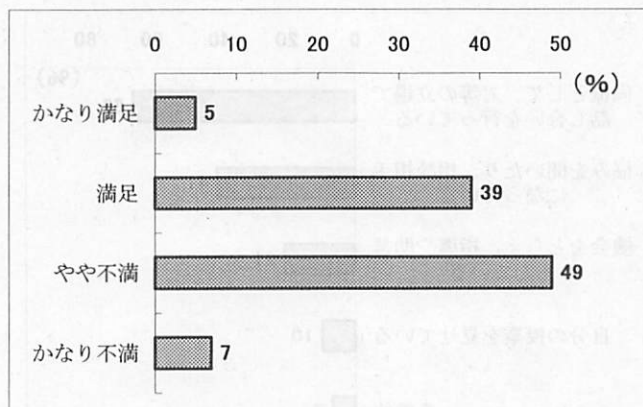


図7-1 現在の仕事への満足度 n=120

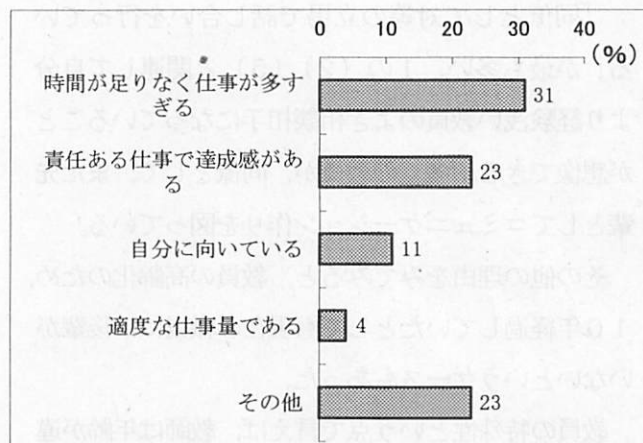


図7-2 満足度の理由 n=120

仕事への満足が、「やや不満」「かなり不満」を合計すると56%になり、満足傾向の44%と比較すると不満傾向がやや多い。

不満の理由の第一に、「時間が足りなく、仕事が多すぎる」が挙げられている。教科指導・生徒指導、中学校では部活動のことなど仕事の量が多いためかもしれない。

一方、満足傾向の人は、「責任がある仕事で達成感がある」と答えており、10年経過ならではの充実感が感じられる。



## (5) 後輩との接し方

自分より経験の浅い教員にどのように接しているか

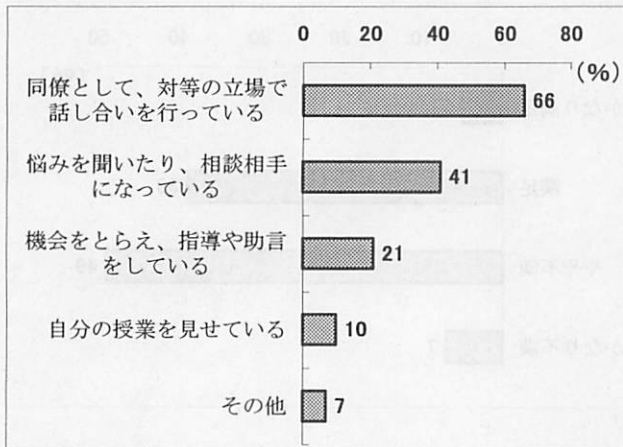


図8 後輩との接し方 (複数回答) n=120

「同僚として対等の立場で話し合いを行っている」が最も多い。1の(2)(5)と関連して自分より経験浅い教員のおき相談相手になっていることが想像できる。多くの教員が、同僚として、また先輩としてコミュニケーション作りを図っている。

その他の理由をみてみると、教員の高齢化のため、10年経過していたとしても現在の職場には後輩がないというケースもあった。

教員の特殊性という点で言えば、教師は年齢が違っていても、やる仕事内容はほぼ同じであるため後輩に対する指導や助言という意識が低いのかも知れない。

コラム 「自分より経験の浅い教員に…」という質問がありましたが、そのようなことが今まであまりなかったように思います。今も年齢でいけば私が一番若いこととなります。自分より若い先生と一緒に仕事を進められたら…とふと思います。

(小学校・男)

## (6) 組織

今、自分の校務分掌についてどう思うか

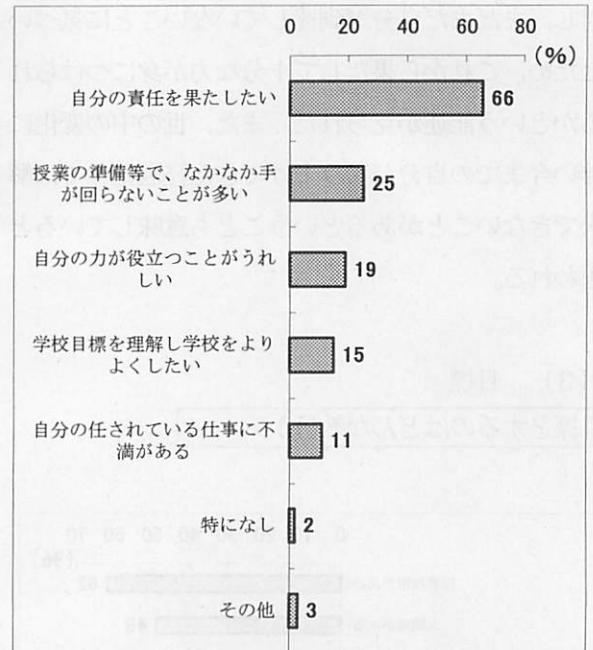


図9 校務分掌への意識 (複数回答) n=120

これは自分の校務分掌に対する意識を問うものであるが、質問5「仕事への満足度」との関わりを見ることがもできる。

まず、「自分の責任を果たしたい」と回答した人が66%と最も多く、組織の一員として自分の仕事に真剣に取り組んでいることが分かる。「自分の力が役立つことがうれしい」と回答した人は、仕事の中にやり甲斐を感じ、充実感を持って仕事に取り組んでいるに違いない。また、少数ながら「学校目標を理解し、学校をよりよくしたい」という15%の回答があったが、組織人としての自覚がみえ、10年経過教員として、今後さらに増えていくことが期待される意識の一つである。

反対に、「授業の準備等で、なかなか手が回らないことが多い」という回答も全体の5分の1を占めている。責任を持ってしっかりと仕事をしたいと思いつつも、忙しさからなかなか思うように仕事ができないという現状が浮き彫りになった。これは、しっかりと仕事をしようとする強い責任感の表れと見ることもできる。「自分の任されている仕事

に不満がある」と回答した11%の人たちについて、「任されている仕事」が何を指すのか、この数字だけでは分からないが、その理由を質問6の「仕事への満足度の理由」や現在の校務分掌と関連させてみると、第一に、自分の専門外の教科領域や部活動を担当し、苦勞していること、第二に、児童生徒の成長と直接は関わらない分掌を担当し、やり甲斐を得られないこと、第三に、仕事の内容ではなく、仕事量が多すぎて家庭との両立が難しく、悩んでいることが考えられた。これは特に、女性教員に多く見られた。

以上のことから、校務分掌というものが、個人の資質能力・家庭環境を踏まえた上で、慎重に与えられなければならないことがよく分かる。また、これを機に自分の生活を見直し、いかに時間を作り出さか考えていくことも必要になろう。

コラム 生徒への対応、保護者への対応の仕方などが、見えてくるようになった。

(中学校・女)

(7) 研修

今、どんな研修が必要か

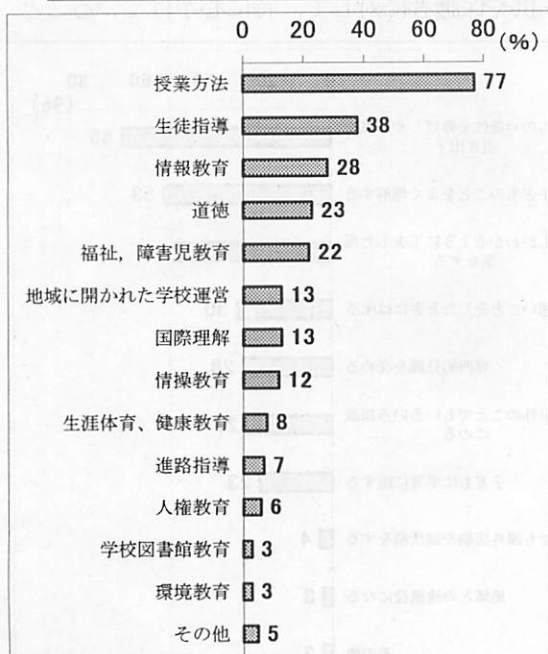


図10 必要と考える研修 (複数回答) n=120

これは、どのような研修を積んで、力を付けてい

きたいかを探るもので、1の(1)の「これまで力を入れて取り組んできたもの」と2の(1)の「10年を経過してどんな力が付いたか」という質問への回答と大きく関わっている。

まず、「授業方法」を選んだ人が77%いるが、1の(1)や2の(1)においても「学習指導」を挙げている人が一番多かった。教師の仕事の基本が「授業」であることを物語るものと言えよう。

「生徒指導」の38%に関しては、多少、小中学校の違いがあるであろうが、不登校生徒の多様化など、これまでの経験で対処できない問題も多く、研修を必要としているものと思われる。

その他「情報教育」の28%や「福祉・障害児教育」22%、「国際理解教育」13%などの今日的な課題に敏感に取り組もうという意欲がうかがいすることができる。

全体としては、「授業」や「生徒指導」、「道徳教育」など、今日の前にいる児童生徒にどのように指導していけばよいのかという意識が強く、日々の生活の中での悩みもその点に集中しているものと思われる。10年を経過した教員の学校の中での役割なども見えてくるものとなった。

(8) 課題

現在、早急に対応しなければならないと思う課題は何か

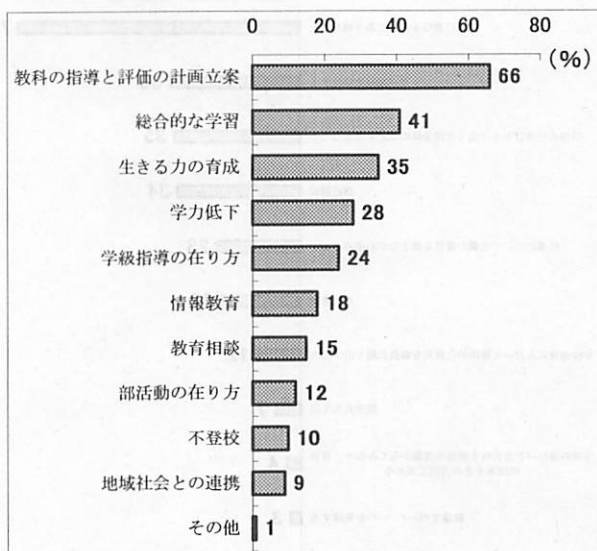


図11 課題 (複数回答) n=120

第一に「教科の指導と評価の計画立案」66%を取り上げ、第二、第三に「総合的な学習」41%と「生きる力の育成」35%を並べたが、これは、新学習指導要領の実施に伴い、各学校で今最も重要な課題となっていることと一致しているものと思われる。当然の結果とも言えようが、今日的課題にすばやく敏感に対応しようとする意識を持っている点を高く評価したい。それは、新学習指導要領の実施と同時に浮上してきた「学力低下」の問題を、次に取り上げていることから見て取ることができる。

また、数は少なくなるが、中学校では「部活動の在り方」を取り上げている人が4分の1近くいることも見逃すことができない。生徒にとっては部活動と勉強の両立が問題となるが、教師にとっても、部活動と他の仕事の両立あるいは部活動と家庭生活の両立が大きな悩みとなっていることを表すのではないだろうか。自分も好きで、部活動の意義を十分に理解して積極的に取り組む教員がいる一方で、質問6にも見られたように、生徒や親の期待にこたえようと無理を重ねている教員が存在していることも事実であろう。

(9) 心がけていること

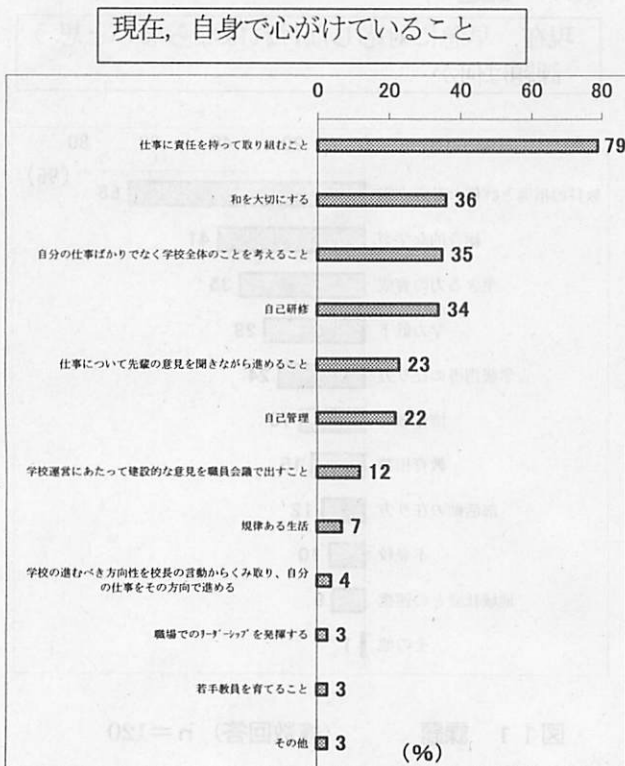


図12 心がけていること (複数回答) n=120

質問の8にも見られたように、「責任を持って取り組むこと」を選んだ人が最も多い。

次に、「和を大切にすること」36%や「学校全体のことを考えること」35%を取り上げている人が多い。これまでの質問で多数を占めてきた「学習指導」や「生徒指導」などは、他の教職員との連携の上で成り立っていることを、10年の経験の中で学んできたと思われる。さらに、「学校運営にあたって建設的な意見を出そう」という意識を持つ人たちが少数ながら出てきていることは、興味深い。一方で、「若手教員を育てること」や「職場でのリーダーシップを発揮すること」と回答した人の少なさは、少子化社会に伴う現在の学校職員の年齢構成に関連すると見ることもできる。

コラム 様々なことについて見えるものが広がったが、その分自分の責任の重さを感じるが多くなった。常に原点に戻されるような気持ちである。  
(小学校・男)

(10) 子どもや保護者に対して

子供や保護者に対して、特に心がけていること

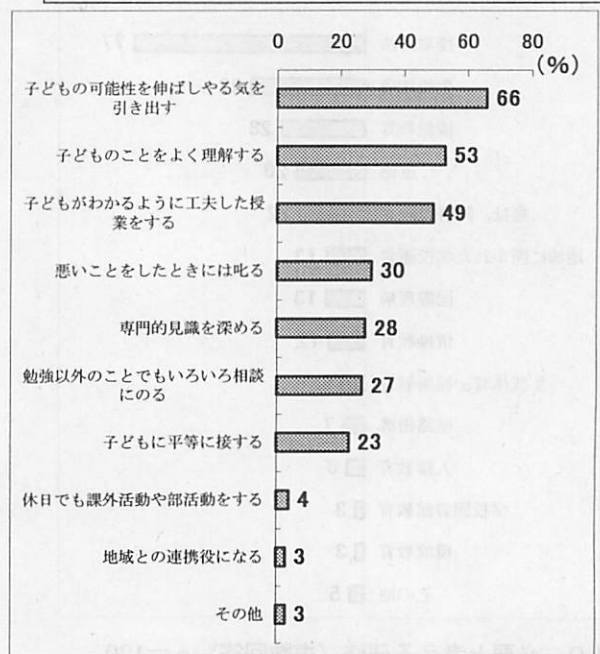


図13 子供や保護者に対して心がけていること (複数回答) n=120

日頃、子どもや保護者に対してどのような意識で接しているのかを問う質問であるが、結果から、自分が教員になったときに描いていた「理想の教師像」に近づこうと努力する姿が見えてきた。「理想の教師」とは、I-4で回答していた、自分が今まで出会った「子どものことをよく理解してくれる」先生であったり、「分かりやすい授業をしてくれる」先生であったり、「可能性を伸ばしてくれる」先生であったり、「優しく且つ厳しい」先生であったりするようだ。いずれも自分の体験を踏まえ、よりよい教師を目指す真摯な姿がうかがえる。そして、保護者から求められているものと一致することも分かった。

今後は、それらの体験の上に専門的見識を深め、より確かな力を身に付けていくことが望まれる。

(11) 子どもに対して

子供にどんな人間に育ててほしいか

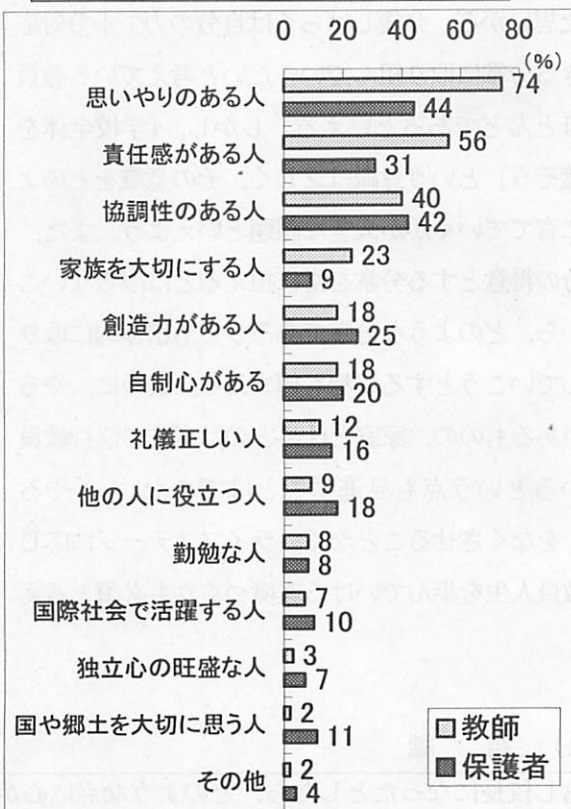


図14 子供に対してどんな人間に育ててほしいか (複数回答) 教員 n=120 保護者 n=100

子どもたちをどのような人間に育てていきたいかを問う質問に対し、大変興味深い結果を得られた。第一に、圧倒的多数で「思いやりがある人」74%、次いで「責任感がある人」56%と「協調性がある人」40%が並ぶ。これらの価値は、学校という集団生活上、欠かせない大切なもので、回答の上位を占めているというのうなずける。学校を卒業すれば、今度は「社会」という集団生活を送らなければならない。共に生活していくための基本を、まずは身に付けて欲しいと願う教師の思いが伝わってくる。

そして次に、「家族を大切にす人」という回答が23%の人からよせられた。人格を形成する上で基盤となる家庭の大切さはだれもが認めるところであろう。特に中学校では、第二次反抗期を迎え、親との関係がうまくいかない子どもたちが増えてくる。理屈では分かっている、つい見失ってしまうことの多い「家族の大切さ」を学校で指導し、子どもたちに自分を見つめさせる機会を設けることは必要であろうか。図14から教員と保護者との意識の差は、それほど見られない。

コラム アンケートに答えて、改めて、自分を高めてはならないと思われました。頑張りたいと思います。(中学校・女)

コラム 「みんなちがってみんないい」という詩があったと思いますが、一人一人を認めるような、長所を伸ばしていただけるような、そして、それが子どもに伝わる教育のできる先生を希望します。(保護者)

コラム 先生方から学んできた皆さんのことを、親として、時には友人として見守っていただけるようなすばらしい先生が一人でも多くなることを希望します。(保護者)

### 3 あなたのこれからのことについて

#### (1) 校務分掌

これからどんな校務分掌を担当したいか

10年経過教員が、今後の教員人生を歩んでいく上で、どのような分掌を担っていききたいかをたずねた。

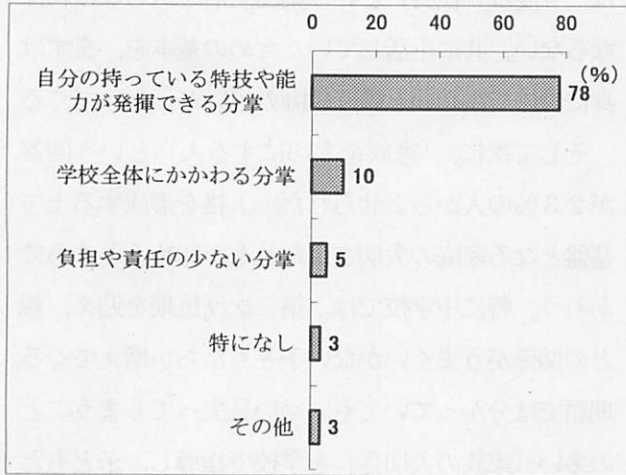


図15 担当したい校務分掌 n=120

「自分の持っている特技や能力が十分に発揮できる分掌」につきたいと考えている教員が圧倒的に多く、78%と高い数値である。これは、10年の中で様々な分掌を担った結果、「成果があった」、あるいは「今度はこうやりたい」という意欲をもち、今後自分の持てる力をさらに発揮していききたいという積極的な意識の表れととらえることができる。しかし、2の(6)で「自分の任されている仕事に不満がある」と回答した教員が8%いることから分かるように、現在は自分の得意分野でない分掌を担っていると感じている教員が少なからずいることも明らかである。

しかし、「学校全体にかかわる分掌」を回答した教員が10%弱と1割にも満たない。これは、2の(6)の「学校目標を理解し、学校をよりよくしたい」が11%に対し、2の(9)の「自分のことばかりでなく、学校全体のことを考えること」は13%という結果からも分かるように、10年を経

過し学校全体を考えていこうとはしているものの、学校全体を見渡した分掌を担おうという意識が若干低いようにも感じられる。

次に、「負担や責任の少ない分掌」と回答した教員がいる点にも注目したい。自由記述に、「最近、責任のある仕事を任されることもあり、やる気もありますが、家庭、子育てとの両立に悩むことが多いです。部活の指導は、生徒と触れ合える大切な機会ですが、休日出勤等で一番負担となっています。」という回答が見られた。家庭と仕事との両立に難しさを感じている教員がいることは事実である。このような回答は、やる気があるものの、可能であれば負担が少ない分掌につきたいという正直な気持ちの表れととらえることもできよう。

以上から、10年を経過して様々な分掌を担い自信がついてきているものの、「さらに深めていこう」「可能性を見いだしていこう」、あるいは「まだ自分の特技や能力を十分に発揮できていない」といった思いから、今後しばらくは自分の力で十分対応できる分掌に取り組んでいきたいと考えている教員がほとんどであるといえる。しかし、「学校全体を見渡そう」という意識は乏しく、その意識をどのように育てていくかが大きな課題といえよう。また、自分の得意とする分掌を常に担えるとは限らないことから、どのような分掌であろうとも積極的に取り組んでいこうとする姿勢も望まれる。最後に、やる気があるものの、家庭と仕事とのほざまで悩む教員がいるという点も見逃すことはできない。「やる気」をなくさせることなく、ライフステージに応じて教員人生を歩んでいける環境づくりも必須と考える。

#### (2) 組織

もし校長になったら、どのような点に心がけていきたいか

今後もし校長になったら、どのような点に心がけていきたいか(三つを選択)をたずねた。図16がその結果である。

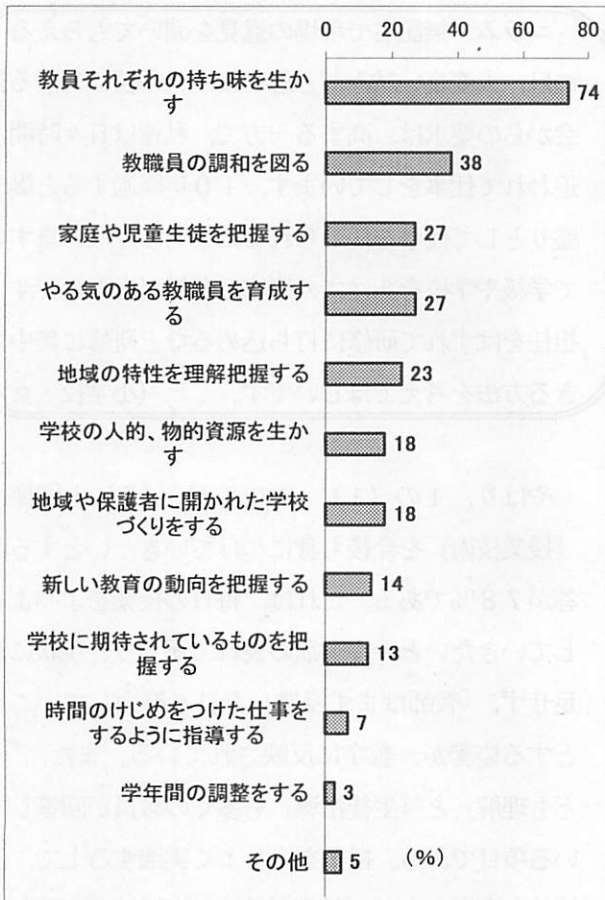


図16 校長になったら心がけたいこと  
(複数回答) n=120

「教職員それぞれの持ち味を生かす」と回答した教員が74%と高い値である。これは、3の(1)の「特技や能力を生かす」と関連し、教員それぞれの持ち味や個性を重視した学校経営をしてみたいという結果と考えられる。次に、「教職員の調和を図る」という回答が38%と高い。組織としての「和」の大切さも必要であると認識している表れと考えられる。これは、2の(9)で「和を大切にすること」を現在心がけている教員が多いこととも関連していると考えられる。「持ち味」や「和」は、どちらも人間性に関わる項目であることから、個性を重視し、人と人とのつながりを大切にしようとする意識がうかがえる結果である。

以下、「やる気のある教職員を育成する」と「家庭や児童生徒を把握する」が27%、「地域の特性を理解把握する」が23%、「学校の人的、物的資

源を生かす」と「地域や保護者に開かれた学校づくりをする」が18%、「新しい教育の動向を把握する」が14%、「学校に期待されているものを把握する」が13%という結果である。これらは、管理職として「これからの学校」をどのように運営していくかを考えていく上で重要な視点といえよう。

「教育動向」、「学校に期待されること」、「地域や家庭、子どもの実態」、「人的・物的資源の実態」を敏感に感じ取って把握し、実践し、成果を「公開」する。このような視点は、10年経過教員の多くにそれらを求めることは難しいと思われる。よって、当然の調査結果であろう。

以上から、10年経過教員の意識としては、教員の「個性」や「和」を重んじた校長が望ましいと考えており、現場の組織を効率的に、かつ円滑に運営していきたいという考えに基づくものといえよう。また、学校を運営していくために把握しなければならない点についての回答は、「個性」や「和」に比して少ない。このような意識を、10年を経過した教員に要求することは難しく、学校の中で幅広い視点をどのように身につけさせていくかが大きな課題といえよう。

なお、保護者アンケートの質問1で、学校の満足度をたずねたところ、非常に満足している56%、満足している33%、やや満足している6%、満足していない5%だった。質問2のその満足度の理由としては、子ども理解48%、教科指導38%、保護者や地域とのかかわり37%、教育目標29%、道徳教育・放課後の活動や部活動23%等であった。質問6で、学校教育への参加についてたずねたところ、回答のあった100名のうちの99%が、機会があれば協力したいと答えており、その具体例として授業参観等への出席78%、学校行事等への参加67%の他に、子供会等の運営に参加32%、地域清掃等30%、ゲストティーチャー等で手伝い16%等を選んでいる。これからの、開かれた学校づくりの参考となる数値である。

コラム 生徒に対してどれだけのことができるかということ常々心に掛けて生活しています。そのためには、しっかりと授業技術の向上に向けて取り組める研修の時間を確保できればと考えております。

(中学校・男)

### (3) 身に付けたい力

今後身につけたい(必要である)と考えるものは(資質能力)は何か

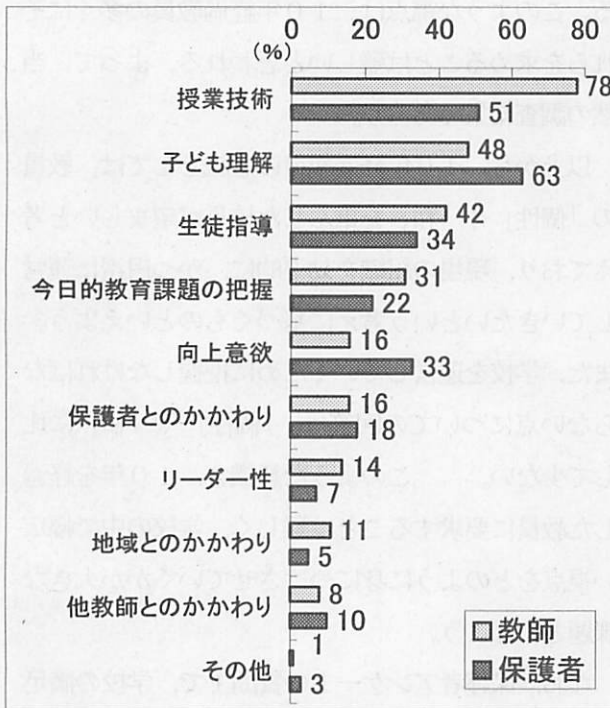


図17 今後教師に必要と考える力

(複数回答) 教員 n=120 保護者 n=100

今後身につけたい(必要である)と考えるもの(資質能力)を三つ選択するようたずねた。

コラム 大変なこととは思いますが、児童一人一人の性格、個性を把握して指導して下さること、また、それらを受け止めて下さること、勉強はもちろん大切ですが、先生との関係は、児童にとっても大切で、大事なことだと感じます。(保護者)

コラム 無記名で現場の意見を聞いてもらえるのは、大変良い試みだと思います。学校に対する社会からの要求は、高まる一方で、私達は日々時間に追われて仕事をしています。10年経過すると働き盛りとして仕事を任せられることも多くなりますので学級や学校をあけての研修は負担が大きいです。担任をはずれて研修に打ち込めるなど研修に集中できる方法を考えてほしいです。(小学校・女)

やはり、1の(1)、2の(3)、(7)と同様、「授業技術」を今後も身につけていきたいとする回答が78%である。これは、毎日の授業をよりよくしていきたいという意欲の表れであろう。現状に満足せず、「教師はまず授業」と日々努力していこうとする姿勢が、数字に反映されている。また、「子ども理解」と「生徒指導」も多くの教員が回答している項目である。授業をよりよく実践する上で、直接的な要因となる「授業技術」、「児童生徒理解」、「生徒指導」が高位に回答されているのは当然の結果といえよう。この傾向に、小中の校種差、男女差は認められない。

これらの次に多い回答は、「今日的課題の把握」である。現在の教育課題を見極めていこうとする意識を持つ教員が31%いる。その他、「向上意欲」、「保護者との関わり」、「リーダー性」、「地域との関わり」と続く。自分を高めていこうとする意識を持つのは重要なことであり、その観点から「向上意欲」が16%というのうなずける。また、「保護者との関わり」や「地域との関わり」といった学校外での交流を意識している教員がいる点も重要である。

以上から、10年を経過してもなお、日々の授業を高めていくために、「授業技術」、「児童生徒理解」、「生徒指導」を身につけていこうとする意識が強いことが分かる。このことは、自分自身が当面目標とする点は「授業における実践力」であり、Ⅲ-1-2との関連をみても、「学校運営」という組織全

体に関係する力量を高めることは十分に意識するまでには至っていないということを物語っている。言い換えれば、組織の一員としての自覚が、中堅教員にほしいものかもしれない。このような多数意見の次に、「今日の教育課題の把握」がきている。これは「課題を知る必要性を感じている」という表れであり、問題意識を持っている点は注目すべきであろう。さらに、「保護者との関わり」や「地域との関わり」も少数ではあるが意識している。これらも、学校全体を知る上で重要な要因であり、そういった情報を把握する力を高める努力は、今後の教員人生によりいっそう必要とされることであろう。

保護者から見て、教師に身につけてほしい力は、「子ども理解」「向上意欲」の順に多い。保護者の期待にこたえる意味でも、これらの点が見えるように心がけていく必要がある。

## V 研究のまとめ

今回の各調査から全体を見ていくと、次のような傾向が見られた。

### ① 自信の有無

変化の契機を同僚や管理職の影響とした教員94名のうち39名が自信を持っていると答えている。

自信に関する質問では、小学校男性教員の57%が教員生活10年を経験して自信をつけているが、中学校男子教員では自信をつけた人が35%で、逆に23%が自信を無くしている。中学校女子で自信を無くした人が13%なのに比べても顕著な傾向である。また、いずれも女性の方は校種に関係なく安定している。

現在の仕事への満足に関しては、自信があつて仕事にも満足している人が59%。この点に関しては校種の差はあまりなかったが、自信は必ずしも満足に直結していない部分も

見られた。

### ② 教師を取り巻く環境の変化

今回調査を行った10年経過教員は平成4年に採用された人々であり、初任者研修制度が実施されて4年目、昭和55年～58年に中学期を送った教員である。日本はこの間、経済、教育等の分野で価値観の多様化が進んだ時期でもある。そして、今後も早い動きで教育改革が進行することは現実的な状況にある。

かつての地域社会と同様に、学校には子ども・教師を育てていくシステムが現在より強固なものとしてあつた。達磨ストーブを囲み、鯛を焼き、文字通り炉辺談話として先輩の先生から、人を育む職業のなんたるかを学ぶことで、教職という専門職にあつて異年齢からの教育文化・学校文化の継承ということがあつた。教育技術は子どもとのかかわりと同様、生身の先輩・同僚の肉声から教えられることが多く、かつ、重要な情報が内在している。また、教員の生活環境変化の中で様々なことが読みとれる。

一つは、地域環境の変化である。地域は急速に過疎化と高齢化が進んでいる現状もあり、今後もこの傾向は続くものと思われる。教員が地域住民として活動することと、勤務校での部活動や勤務校学区の行事にかかわることとの判断を迫られる場合も出てきている。

二つは、家庭環境の変化である。アンケートの自由記述欄には、「結婚や出産を通して子どもを幅広い視点で見ることができるようになった」という声に代表されるたくましく育ちつつある姿と、教員自身が家庭と教職の間で悩む姿との両面がうかがえた。これは、条件や対応に対して、出ているであろう不満と共に、求める仕事の質が経験を経て変化していることも考えられる。言い換えれば「ブラ



スの意味での不満」としての要素が読みとれる。

豊富な教育情報があふれる今日、責任感・使命感があり意欲的な教員ほど自信を失ったり、悩んだりする実態がこの調査から見えてくる。子どもたちは自己に謙虚でありながらも、自信を持った教員から真理を教えてほしいと願っていることは自明の理である。

教職10年経過者は、多様な教育価値観の表出するこの時代にあつてこそ揺るぎない教育専門職としての10年間の経験に基づく自信を持って学校内のリーダーとして子どもたちや教員集団をリードして欲しい。10年間の経験は、他の人には経験できない貴重な経験なのである。

教員としての長いライフステージの中にあつて、教員の生涯を見通した人生設計を組み立てていくことがますます必要となってくる。これから少子高齢化が加速する時代にあつては一つの校種、一つの教科領域のみにとどまらず、多様な分野での仕事も視野に入れて自己の実践的指導力を磨いていくことが強く求められている。自分が蓄積してきた教職に対するノウハウを生かしていくことは、これから子どもからも保護者からも必要とされるだろう。よい意味で学校文化を継承していくこと、そのことにより、学校教育の不易と流行の部分の取捨選択、および教員それぞれが培った失敗体験を含む生の教育情報集積の資産共有化が今後は大きな意味を持つてくることになる。

## VI 本研究を踏まえた提言

### ■ 1 教員としての専門性に自信を持って自己啓発

本調査研究をとおして、これからの時代に生きる教員として大切なことは、専門職としてのアイデンティティを持ち続けること、自分の実践してきたことを謙虚に受け止めることが、次につながる確かな

一歩となるということである。そのためには、教員自らが常に自己変革を続けていくことを大切にしたい。

### ■ 2 教員としてのライフステージを見通していく

教員となつて、10年経過しての教員生活を俯瞰していくことで、今後の自分自身の教員生活を見通していくことの意義の大切さを再確認したい。そのためには、今後約20年のライフステージを見据えた上での現在の立脚点を再確認していくことが大切である。

## VII おわりに

現在、教員を含め、学校への社会的要請は多様で深い。しかし裏返せば、学校でのみできることがあるからで、教員の側にその自覚があるかないかで、教員自身がどう変われるのかが、定まってくる。その意味では、自分の仕事に不満があると答えた教員の側の捉えとして、「もっと創造的に仕事がしたいのに回ってこない」というプラスの面があるという考え方もできる。

教員が自己研鑽して成長を続けていく過程で、授業の力をつけることはすべての基本である。そのためには、外部に積極的に公開していくことが普通のこととして根付く努力が求められる。将来、学校の体制が開放されてきた時に、内向きで脆弱な組織であれば、外部からいろいろな要求が入って来た時に適切に対応できないことが予想できる。このような状況にあつて教員自らによる自己形成、自己研修が意識的に進められていくことが今、強く求められている。10年経過教員は誰もが経験できない貴重な経験をそしゃくして、学校教育文化の伝承者として子どもたち、後輩に対して、教育の根幹を為す「教える喜び・学ぶ楽しさ」を未来に継承していくという誇りと自覚と責任が求められる。学校教育に対しては現在、多くの期待がかけられている。そし

て、教育のプロとしての教員には豊かな経験に基づく確かな見識を求められる機会が多くなっている。教育改革の進む現在、たとえ、校内で最年少教員であったとしても10年経過教員としてこれまでの実践をバネとして、あらゆる場で積極的に発言・提案・検証をし、組織の中の一員としての自覚を持ち続けていくことが大切である。

猛烈な構造改革が進行する民間企業と比して、教育の分野は改革が遅いといわれる部分はあるのかもしれない。10年経過教員が、まず足元をしっかりと固めることの意味をしっかりと見据えていかなければならないだろう。この研究が10年経過教員の実態を理解し、今後の研修の企画立案等に役立つことができれば幸いである。

最後に、この調査にご多用の中協力いただいたすべての10年経過教員、ならびに保護者の皆様に深く感謝申し上げる次第である。

## 〔座談会〕

### 10年経過教員意識調査から見えてきたもの

〔出席者〕

水原 克敏 教育学研究25年

佐藤久美子 6年主任 家庭科主任

教職経験24年

村上 武夫 教務主任 教職経験21年

菅原 幸江 3年担任 図書館教育主任

教職経験19年

吉田 秀夫 副教務主任 研究主任

教職経験20年

首藤 雅浩 進路指導主事

教職経験13年

佐々木文子 4年担任 特活主任

教職経験11年

只野 哲(司会) 教育センター教職研修班主任

指導主事

只野 本日はお忙しいところを本座談会に出席していただきありがとうございます。東北大学の水原先生をお迎えして「10年経過教員意識調査を振り返って」をテーマに、皆さんで大いに語り合っていたきたいと思っています。なぜ今「10年経過教員」という言葉がキーワードになってきたのか、その背景も含めて、水原先生、お話をさせていただきますか。

水原 新任教員として教職について驚きととまどいの中始まる。2～3年で普通の教員としての落ち着いてくるまでの経過5年、10年過ぎからの束ね役に至るまでの意識形成がどのように進んでいくのか。私自身も大変興味のある部分です。皆さんの話をたくさんうかがいたいと思っています。

## これまで

只野 はじめに、次に10年経過教員の変化の契機について考えたいと思います。佐藤先生は、アンケートの結果を、どのようにご覧になったのでしょうか。ご自身のことも含めて、お話しいただけませんか。

佐藤 24年目。職場の中ではまだ上の方がいます。アンケートの結果をしてみると変化の契機は、自分が小学校だったときの先生だったり、あるいは嫌いな先生ということもあるということが分かりました。何年かやっていくうち、4、5年たって結婚の後ということも多いのでは。



私自身は、教育実習の時の先生のインパクトが強かったです。厳しい先生でした。同僚の教師とのかかわりでは、私の場合転勤するたびに影響を与えられた先生方がいました。今も大切にしております。

水原 どの学校にも「ああいう人が教師としての目標になるような人」という人がいればいいのですが。先生の場合には、転勤するごとにそのような先生がいて幸せですね。そういう経験があれば後輩に

返せる。それが、自然に後輩に返せることがつながっていき、財産となります。

佐藤 私は、初任時代にいわれたことがずっと残っています。「人と同じことをやっているだけではだめ」という言葉です。

村上 教職に就く前の教師像は、子どもと一緒に活動できる教師になることでした。転勤するたびにお世話になった先生、特に学年主任の先生に接して、



あの先生のようにになりたいという目標が生まれました。変化の契機は校務分掌ですね。与えられた仕事に苦勞して取り組むことによっ

て変わってきたように思います。8年目に生徒会を任されたときですね。充実感があり、自信につながったのかもしれない。

水原 生徒会がうまくいくかどうかで、学校の雰囲気が変わっていいですね。

村上 その時、生徒会の行事が無事終わることができてよかったと、ほっとしました。

只野 学校全体にかかわることの緊張感のある立場ですね。

水原 10年目までに全校にかかわる分掌を任される経験は、変化の契機になるでしょうか。

村上 全校にかかわる仕事に就くことが、変化の大きな契機になると思います。

水原 10年くらいまでに、そういう仕事のチャンスがあるといいですね。中堅教員を育てるのには、そのような計画が学校にあることが大切ですね。

只野 10年たって、そういう機会があるかどうか、中堅教員を作っていくには、全校にかかわる仕事があるかどうかということが大切ですね。吉田先生の場合はどうでしたか。

吉田 教師に就く前、理想像はありませんでした。新任は郡部で3年。そこでの先輩教員に恵まれました。教科の指導など、あの先生のようにになりたいなと思える先生がたくさんいました。3年目で体育主任をしました。これは、全校を動かす立場で、それ

が自信になりました。

ところが、仙台に入ったとたん若手教員になり仕事がなくなったし、チャンスもありませんでした。でも、何年かいるうちに教科の主任になり、また、自信がもてるようになりました。私の場合は、先輩とのかかわりと校務分掌が大きかったと思います。

水原 ようやく全体を見渡せる力がついた。大きい学校に勤務すると仕事がまわってこないことがあるのでしょうか。

吉田 小規模校ですと、一人あたりの仕事量は多いのですが、いろいろな仕事を覚えるチャンスはあります。

水原 チャンスがあるかどうかは学校規模にもよるといっていいですね。

只野 中堅教員の変化の契機には、どんな要素があるのでしょうか。菅原先生はいかがですか。

菅原 教員としての自覚が高まるのは、やはり責任ある仕事についてその達成感を得る経験をすることからではないでしょうか。中学校では、割と校務分掌に男女差があり、生徒会担当などという大きな仕事は男の先生に任されることが多いと思います。



生徒を動かす行事にかかわれることは、教師としての意識を変えます。まずは、学年の大きな分掌の中で大きな仕事を意識的に担当させ、

全体を見渡す力などを意図的に形成しなければならないと思います。

水原 その場合、女性教員への配慮はなされるのでしょうか。

菅原 私自身は、随分助けられたのでありがたいと思うこともありますが、もう少し活躍のチャンスがほしい方もいるのではないのでしょうか。

水原 結婚したときなど、結婚前よりも仕事は7～8割になってしまうのではないのでしょうか。先生はどうでしたか。

菅原 私の場合は自宅に父母がおり、時間的な拘束はありませんでした。しかし、同僚の先生で、お

子さんを保育所などに預けている方は、5時以降残っていることができないので勤務時間ないにしごとをこなすようにがんばっていました。

水原 若い女性、ベテランの男性といったすみわけがあるのでしょうか。

菅原 女性はそれで守られている部分もあるかもしれません。

水原 私が知っている人で主任の時は立派に仕事をこなしていたのに、係長に昇任したらやめてしまった人がいます。人を活かすのは難しいですね。

佐々木 別の仕事をしてから教員になりました。子どもの気持ちが分かるような教師になりたいと思ってきました。初任からの3年間、出会ったすべての先生がさりげなく教えてくれたので、仕事を覚えることができました。校務分掌は、

希望がかなえられたことはありませんでした。昨年のことですが、教員になって11年目で特活主任を任され、特活の大会を企画運営したのですが、周りの先生方のサポートで何とかこなせました。

水原 別の仕事というのは、教員になる前は企業にいたということですか。

佐々木 公務員です。

水原 学校現場の外から見たときと入ったときでは違います。違いを認め、仕事を覚えようとするからその分丁寧にまじめにやってきたのでしょう。

首藤 教員になる決意をしたのは、高3の時でした。1年間の講師時代に、準備不足から子どもに怪我をさせたことから、授業技術の大切さを痛感しました。初任は高校だったのですが、生徒指導にかかわって、生徒とのかかわりの必要性を感じました。

養護学校にきてからは、先輩からの指導を受けながら、生徒の見方を考え直す機会となりました。校務分掌は、一昨年から進路指導の担当となりました。甘えは許されないこともあり、今はそういう刺激を与えられていると思って仕事に取り組

んでいます。

只野 きっかけをプラスのエネルギーにしていますね。

水原 素直なところがいいですね。いつもまっすぐに乗り越えていく力はどうやってつけられるのでしょうか。

只野 共通に出たのは先輩教師から教えてもらったことが、力をつけていく要素になっているようです。

### いま

只野 さて、それではさらに話を進めたいと思います。アンケートを見ますと自信を失ってしまった人が15%いますが、この点について水原先生、いかがお考えですか。

水原 教師としての自信は、校務分掌から生まれてくるものではないでしょうか。私は、子どもを伸ばしたということ自信を持っている人が少なくなっている

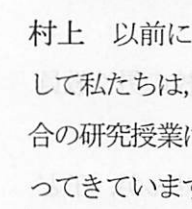
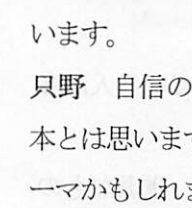
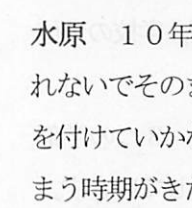
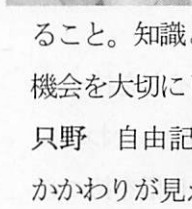
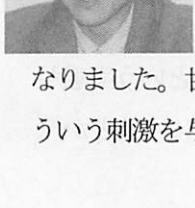
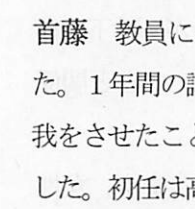
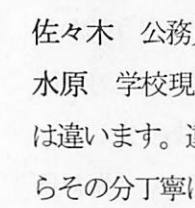
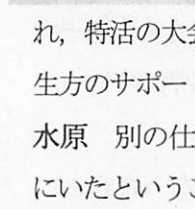
ような気がするのです。授業をする、確かな学力を付けることで自分を磨いてきている人が減ってきているのではないのでしょうか。きちんと教えること。知識と専門性をもって、いい授業をつくる機会を大切にしてほしいと思います。

只野 自由記述を見ると授業、子供、保護者とのかわりが見えてきます。

水原 10年間で授業の基礎を作してほしい。作れないでそのままいくと、つまり授業に対して余力を付けていかないと、別の忙しさに引っ張られてしまう時期がきた時に、授業がおろそかになってしまいます。

只野 自信の裏付けは授業。授業の力が、まず基本とは思いますが。今更という感じで、いいにくいテーマかもしれませんが。

村上 以前に比べて研究授業が減っています。そして私たちは、指導案を書かなくなっています。総合の研究授業は行いますが、教科の研究授業は、減ってきています。40歳代は、自分の教科の指導に



自信を持っていると思いますが、30歳代はどうでしょうか。私にもよく分かりませんが。

水原 授業見るとすぐ分かります。尊敬されているか、他の教師にどの程度影響を与えているか、身に付いているものが見えてきます。10年かけてやってきたものを見せることです。

菅原 授業する機会や見る機会が少ないと思います。仙台市以外は一人1回毎年行っています。特に教科が違くと、普段お互い何をしているか分かりません。生徒が他の教師をどう見ているかだいたい分かりますが、間接的にしか分かりません。

吉田 私の学校は、これまでに授業研究5回、さらに、初任者へ先輩教師の授業を公開もしています。でも、取組に温度差があるのは事実です。郡部は指導主事訪問では全員授業をします。仙台市は、小中



連携で授業そのものについて話し合う時間が少ないので、自分から積極的に学ぼうとしないと、磨く場面は少ないです。

佐々木 私は、算数でTTをして組んでいる先生に、私の授業の進め方についても意見を聞くようにしています。

水原 教育の職業集団としてのプライドを持つことが大切だと思います。たとえ、外部からいわれても自分の領域に関して、しっかりした自信を持つ必要があります。きちんとやっていたら、学校の地位が上がります。

首藤 研究授業は毎年行っています。3つの学部があり、他の学部の教員も見ることになっています。外からの参観者も多いです。

水原 中学校の教員で、自信を失っている人が多い数値が気になります。

菅原 自分はまだまだということで、謙虚なものいいかもしれません。

水原 自信を失っている人が、中学校の男性教員に多いのはなぜでしょうか。

菅原 関連があるかどうか分かりませんが、子ど

もに自制心や協調性を身につけさせたいと望む中学校の男性教師が多いのは、事実です。男性教員は、生徒指導を担当している人が多く、苦勞しているのかもしれないね。

## これから

水原 研究授業は大切だと思います。授業をしないとだめですね。8頁の課題のグラフから、研究授業を積極的にこなすことは、教育のプロとして大事だということが分かります。11頁のグラフから「学校全体にかかわる仕事がしたい」というのは次の飛躍への役割がほしいのかもしれない。先ほど佐々木さんのように年齢が一番下なのに主任とかが回ってきたりするの、やはり校長の見識でしょう。教員を育てるには、若くても責任のある仕事を任せるという10年経過者のほとんどは同僚・先輩から学んでいるので、各学校に力のある教員が一人でもいることが大事です。柱になる人、それが中堅教員です。よい意味での学校文化の伝承のためのキーマンです。学校の中で、そういう人から学んでいってほしいですね。

首藤 組織のなかでの質問で校長になったらという質問が11頁にありましたが、学校をどう動かしていくかという内容ですが、「校長にならない」「校長として考えられない」という答えがありました。これをどうとらえたらよいのでしょうか。「先を見いだせない。未来を見られない。自分が一番下の存在だ」と状況を悲観している教員が多いことと関係はないでしょうか。

佐々木 小・中の差があるように思います。女性の場合は、生活環境の変化で自信をなくしています。水原 それぞれに道筋をつけてあげたい。

吉田 プロ意識といえば、野球やサッカーでは「プロ」の意味がよく分かります。教育のプロとなるとどういうのが教育のプロなのかうまく言えません。一口で言えない仕事に就いているという実感がある。たとえば、勉強ができる子どもにするとか、

人間として一人前にするとかになるのでしょうか。教職という仕事の幅の広さと奥の深さを感じて、逆に自信がなくなす時もありました。

水原 塾に行くと、子どもたちは実にあっけらかんと学習に励んでいます。対社会的に、学校はそう簡単にいかないんだという説明はできますが、今は、学校以外に頼るところがないというのも事実です。学校を拠点に教育をしていくしかないのではないのでしょうか。まだ学校には、威光があるのです。「学校で～」というど働き目があります。

村上 アンケートの結果から、新任時に比べ自信は出てきたけれども、今の職場や仕事に不満というふうに微妙なずれがあるのではないのでしょうか。

佐藤 私は不満の意味を「前向きな不満」と読み取りました。たとえば組織に対してですが、民間と違い学校独特の横並び意識は、時には良くない面もあるように思います。横の連携も大切ですが、先輩教員として、次の代にしっかりと伝えていくという縦の連携も大切だなあと感じました。

水原 早晚、それらをつないで生かしていく明るいシステムをつくる必要がありますね。

水原 台湾や中国では、大学で講義をすると質疑を残り30分ぐらい取っています。質問する練習のためです。そんな風に研修すると、もっと満足感も高くなります。形式的な御礼は不要です。講師はあくまで教材なので砕いてやるのが大切。砕いていく訓練をしていくのが大切です。

只野 次年度からの新10年研では、聴くだけの研修にはならない工夫をしたいと思います。本日は長時間にわたって話が多岐にわたり、いろんな意味で学ばせていただいて大変ありがとうございました。



全体を通じて、教員の力量形成の意義と、それを広い視野から見ていくことがとても重要です。結局、教員を育てるというのは、教育の

本質をしっかりと見据えて歩もうということだと思います。本当にありがとうございました。

(02.12.26第8回調査研究委員会で集録)

コラム 10年間はあっという間に過ぎ、教員としての資質も、大きく変化していないように感じ反省させられました。長い間過ごしてきた中で、失敗も多くあり、まだまだ未熟で仕事も要領が悪く、悩みも多くありました。ただ、少しだけ心が広くなったような気がします。柔軟性、先を見通す力などが、これからの教員には強く求められると思うのでこのアンケートをきっかけに考えさせられました。

(中学校・女)

●参考文献

- ・水原克敏 2001 「自分～私がわたしを創る」 東北大学出版会
- ・『教育アンケート調査年鑑』2001 創育社
- ・「教員研修の効果的な在り方」2000 奈良県立教育研究所
- ・「教員のライフステージに応じた研修に関する研究」1999 山口県教育研究所

●委嘱研究員

東北大学大学院教授	水原 克敏
お人形社第二幼稚園園長	横澤 行夫
仙台市立台原小学校教諭	佐藤久美子
仙台市立八乙女小学校教諭	佐々木文子
仙台市立長町南小学校教諭	吉田 秀夫
仙台市立台原中学校教諭	菅原 幸江
仙台市立西山中学校教諭	村上 武夫
仙台市立鶴谷養護学校教諭	首藤 雅浩

●教育局教育センター

主任指導主事	只野 哲
指導主事	首藤 真弓
指導主事	松本 高佳
指導主事	篠原 洋治
○指導主事	佐々木 晃

○は事務局担当

## 仙台市小・中学校10年経過教員への意識調査

本アンケートは、教職経験10年を経過した先生方を対象に今後どのような教師を目指されるのか等、考えをお聞きし、教職研修のあり方を探ろうとするものです。つきましては、該当する番号を口記入し、その他については( )内にお書きください。同封の返信用封筒で9月17日まで投函願います。質問以外のご意見がありましたら、アンケートの最後にご記入ください。

仙台市教育センター教職研修班 調査研究

校種 ( 小 ・ 中 ) 性別 ( 男 ・ 女 )

### I あなたのこれまでの歩みを振り返ってご記入ください。

質問1 あなたの取り組んできたもの あなたがこれまで力を入れて取り組んできたものは何ですか。 (3つまで選んでください)

- 1 学習指導 2 学級学年経営 3 生徒指導 4 教育相談  
5 学校行事の企画 6 部活等課外活動の指導 7 地域や保護者とのかかわり  
8 その他 ( ) 9 特になし

質問2 自己研修 あなたの自己研修は主にどのような方法で行ってきましたか。

- 1 校内の先輩同僚の助言 2 校内研究 3 書籍  
4 教育センターの研修会参加 5 その他の研修会参加  
7 その他 ( ) 8 特になし

質問3 理想 あなたは教職につく前に理想とする教師像がありましたか。

- 1 あった 2 なかった

質問4 1 を選んだ方に伺います。どんな教師像でしたか

質問5 変化の契機 教師としての自分の在り方に影響を与えたと思うことはなんだと思えますか。 (3つまで選んでください)

- 1 管理職や同僚教師とのかかわり 2 児童生徒の変容 3 他校種の経験  
4 本人の健康上の理由 5 家族の健康上の理由 6 生活環境の変化(結婚や出産など)  
7 教育実習 8 社会体験 9 長期研修 10 校務分掌の変化  
11 その他 ( ) 12 特になし

質問6 仕事 あなたはこれまでどのような校務分掌を担当してきましたか。最近5年間の主なものを3つをお書きください。

### II あなたの現在のことについてご記入ください。

質問1力 あなたは教職10年を経過して、新任当時と比べどんな力がついたと思いますか。 (3つまで選んでください)

- 1 学習指導 2 学級学年経営 3 生徒指導 4 教育相談 5 学校行事の企画  
6 部活動等課外活動の指導 7 保護者とのかかわり方  
8 その他 ( ) 9 特になし

質問2 自信 あなたは教職10年を経過して新任時と比べ教員として自信ができましたか。

- 1 自信ができた 2 自信がなくなった 3 変わらない

質問3 1と2を選んだ方に伺います。それはどんな点からそういえるのですか。

質問4 目標 今、あなたが目標とするのは、どんな教員ですか。

(3つまで選んでください)

- 1 リーダー性がある 2 企画力がある 3 交渉、折衝の能力がある  
4 授業技術が高い 5 人間味がある 6 保護者との接し方がうまい  
7 仕事に対する責任感がある 8 学年や学級経営にすぐれている  
9 子供との接し方がうまい 10 学校を離れてのボランティア活動も進んで行く  
11 その他 ( )  
12 特になし

質問5 仕事への満足 あなたは今、教員としてご自分の仕事に満足していますか。

- 1 かなり満足 2 満足 3 やや不満 4 かなり不満

質問6 その理由 その理由は何ですか。

- 1 責任ある仕事で達成感がある 2 自分に向いている 3 適度な仕事量である  
4 その他 ( ) 5 時間が足りなく仕事が多すぎる

質問7 後輩に対して あなたは今、自分よりも教職経験の浅い教員に対してどのように接していますか。 (3つまで選んでください)

- 1 悩みを聞いたり、相談相手になっている  
2 同僚として、対等の立場で話し合いを行っている  
3 自分の授業を見せている 4 機会をとらえ、指導や助言をしている  
5 その他 ( ) 6 できるだけ最小限のかかわりをしている  
7 なるべくかかわらないようにしている

質問8 組織 あなたは今、自分の校務分掌についてどう思いますか

(3つまで選んでください)

- 1 自分の責任を果たしたい 2 自分の力が役立つことがうれしい  
3 学校目標を理解し学校をよりよくしたい 4 自分の任されている仕事に不満がある  
5 授業の準備等で、なかなか手が回らないことが多い  
6 その他 ( )  
7 特になし

質問9 研修 あなたにとって、今どのような研修が必要だと思いますか。

(3つまで選んでください)

- 1 授業方法 2 道徳 3 生涯体育、健康教育 4 福祉、障害児教育  
5 生徒指導 6 進路指導 7 情操教育 8 環境教育 9 学校図書館教育  
10 国際理解 11 情報教育 12 人権教育 13 地域に開かれた学校運営  
14 その他 ( )





### 求められる教師像を探る保護者対象アンケート

本アンケートは、学校の中で教職経験10年を経過した教員が、今後、さらによりよい教員を目指して伸びていくために、保護者の皆様のお考えをお聞きするものです。つきましては、ご自分がそう思われる番号を□に記入した後、同封の返信用封筒で9月17日まで投函願います。なお、教師について、質問以外のご意見がありましたら、アンケートの最後にご記入ください。 仙台市教育センター教職研修班 調査研究

質問1 学校への満足度 お子さまが通っている学校への満足度について伺います。  
1 非常に満足している 2 満足している 3 やや満足している 4 満足していない

質問2 その理由 それはどんな点ですか。 (3つまで選んでください)  
1 教育目標 2 教科指導 3 道徳教育 4 子ども理解 5 放課後の活動や部活動  
6 保護者や地域とのかかわり 7 児童会生徒会活動 8 ボランティア活動  
9 その他 ( )

質問3 子どもに対して 学校においてお子さまに教えてもらいたいことは何ですか。  
(3つまで選んでください)

- 1 学力 2 他の人との協調性 3 思いやりのこころ 4 礼儀 5 責任感
- 6 自主性 7 根気強さ 8 公共心 9 公徳心 10 勤勉 11 自制心 12 創造力
- 13 洞察力 3 独立心 14 明朗・快活 15 その他 ( )

質問4 教師に必要な力 教師に現在必要とされる資質能力は何だと考えますか。  
(3つまで選んでください)

- 1 授業技術 2 子ども理解 3 生徒指導 4 他教師とのかかわり
- 5 保護者とのかかわり方 6 地域とのかかわり方 7 向上意欲 8 リーダー性
- 9 今日的教育課題の把握 10 その他 ( )

質問5 指導してほしいこと あなたはお子さまがどのような人間になるように教師に指導してほしいですか。  
(3つまで選んでください)

- 1 家族を大切にすること 2 協調性のある人 3 勤勉な人
- 4 国や郷土を大切に思う人 5 国際社会で活躍する人 6 思いやりのある人
- 7 自制心がある人 8 社会から尊敬される人 9 責任感がある人
- 10 創造力がある人 11 他人に役立つ人
- 12 礼儀正しい人
- 13 独立心の旺盛な人
- 14 その他 ( )

裏面にどうぞ⇒

質問6 学校教育への参加 あなたが学校教育に関して機会があれば参加、協力してもよいと思っっていることありますか。

- 1 ある 2 ない

質問7 質問6で、あるに○を付けた方に伺います。それはどんなことですか。  
(3つまで選んでください)

- 1 授業参観や保護者会に出席する
- 2 運動会や学習発表会(学芸会・文化祭)等学校行事に参加する
- 3 総合的な学習のゲストティーチャー等でお手伝いをする
- 4 地域清掃・巡視等に参加する
- 5 子供会や育成会の運営に参加協力する
- 6 地域の中で危険な場所等、気がついた時には学校に連絡する
- 7 その他 ( )

質問8 自由記述(質問1~7まで答えた内容以外でご意見があればお聞かせください。)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

この用紙を同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函願います。ご協力ありがとうございました。

教育研究紀要 I

『教育は いま』 第10号

発行日 平成15年3月31日

編集・発行 仙台市教育センター  
所長 目黒保伯

所在地 〒983-0825

仙台市宮城野区鶴ヶ谷北一丁目19番1号

TEL 022-251-7441~3

FAX 022-251-7486

Web ページ <http://www.sendai-c.ed.jp>

代表 e-mail [info@sendai-c.ed.jp](mailto:info@sendai-c.ed.jp)

